

We

女と男の家庭科新時代

【シンポジウム記録】

オランダ型

ワークシェアリングは

男を変えるか?!

■ パネリスト

竹信三恵子さん

久場嬉子さん

伊田広行さん



特集

ジェンダーの視点から 「働くこと」を考えるⅡ

5

2001

不登校新聞

<http://www.futoko.org>

Phone 03-5360-1231

月2回発行ブランケット版6P

理屈じゃないんだよね



見本紙、無料送付します

全国不登校新聞社

特集

ジェンダーの視点から 「働くこと」を考えるII

【シンポジウム記録】

オランダ型ワークシェアリングは男を変えるか?! 2

■パネリスト

竹信三恵子さん・久場嬉子さん・伊田広行さん

■コーディネーター 国広陽子さん

■女と男の家庭科新時代

食の歳時記 第22回 日に青葉 山ほととぎす 初鰯	坂本 薫 30
熊本発・困ったときの一発ネタ シュークリームをつくる	池田 久子 32
曲がり角の家庭科⑦ 家庭科教育の幻想	梶原 公子 34
新・オホーツクの潮風荒く	江口凡太郎 40

■連載

女が歳をとるといふこと 第52回	木村 栄 41
家事神話 女性の貧困のかけにあるもの 「嫁」の契約書(上) 第20回	竹信三恵子 42
新米議員のジェンダー議事録 第10回 春風に乗って、女性立つ	木村 民子 46
乱読大魔王日記 第22回	冠野 文 48
ひげのおばさん 子育て日記 第12回 自分で決める	中畝常雄・治子 50
過去を振り返らない/先を考えない 第11回 〈たのしい〉って大事なこと	松本 一郎 52
英語で女性問題を語るための ワンポイント・レッスン 第2回	吉原 令子 54
3年1組の12ヶ月 第2回	来 陽子 56
ジェンダーフリー-大曼陀羅図鑑 第22回	蔦森 樹 60
終幕 第18回 アジアを着る…その4	水田 宗子 61

●編集後記 64

■シンポジウム記録

オランダ型

ワークシェアリングは

男を変えるか?!

■パネリスト

竹信三恵子さん
ジャーナリスト

久場嬉子さん
東京学芸大学教員

伊田広行さん
大阪経済大学教員

■コーディネーター

国広陽子さん
武蔵大学教員

経済の低成長化・グローバル化のもとで、注目を浴びつつある「オランダ型ワークシェアリング」――。仕事と家庭が両立できるような働き方を保障するのか、それとも「食べていけない」ような細切れ労働を働き手に強いることになるのか？ アンペイドワークとペイドワークのバランスがとれ、なおかつ「食べていける」働き方を実現するために必要な経済政策は何か、日本の女性労働問題に詳しい久場嬉子さん、竹信三恵子さん、伊田広行さんに、それぞれオランダ視察やスウェーデン滞在の体験を踏まえて問題提起をしていただき、パートの均等待遇の問題も含めて話し合ったシンポジウムの内容を以下にご報告します。(稲邑)

◎竹信三恵子さんのお話から

●オランダ型ワークシェアリングをなぜテーマにするか
竹信 九九年の秋と二〇〇〇年の秋にオランダに行きました。どうしてオランダに行こうと思ったかといいますと、当初、オランダモデルについて経済界の人たちが、「パートを増やして失業率が下がったとても安上がりない国がある」と言っていたのを聞いて、そんなことってあるのかな、絶対何かからくりがあるぞ、と疑問に思っ



左から、国広陽子さん、竹信三恵子さん、久場嬉子さん、伊田広行さん

たんですね。一方で労働関係の人が「パートと正社員が全く均等な働き方を導入してうまくいった」と。これも日本の現実から考えるとかなり大変なことなので、これもどうやってやるんだらうという疑問があった。そういう「パートを増やして安上がりに、しかも失業率が下がり経済成長もあつた」という見方と、「パートを均等待遇にして社会が活性化し経済がよくなった」という、

ある意味では全く違つた二つの見方が日本の中で交錯していて、うまく結びつかなかつたんですね。その疑問をぶつけて何とか聞いて来たかと思つたことと、

当時、今勤めている新聞社の研究センターでワークシェアリングをテーマにしていたこともあつて、なぜ日本ではそれが難しいのかというテーマを私自身が持つていたということがあります。

ですから今日は、安いパートで経済力が上がったという見方のおかしなところと、なぜオランダモデルが注目されたのか、「オランダモデル」というのはどういうモデルなのか、ということを簡単に説明したいと思います。

●オランダモデルへの注目

まず最初に二〇〇〇年春闘で、なんでもオランダではパート増やしてワークシェアリングをやつてうまくいっているらしいぞという話が経済界の方から出て、注目が集まつたという経緯があります。

ただ、オランダモデルはその前から世界的に非常に大きな注目を集めていたんですね。一時期オランダは「ヨーロッパの病人」と言われるほど、失業率は高く、財政赤字がすごい国だつたのが、九〇年代半ば以降から失業率は下がり、経済成長が非常にうまくいっているらしいと経済協力開発機構（OECD）が注目して、それはパートを増やしたからだと伝わつたわけです。「パート経済のチャンピオン」とオランダ人も言っていますが、九七年

のデンバーサミットのときにクリントン大統領がそのような趣旨の演説をして、それが各国の新聞に取り上げられ、オランダモデルという不思議なものが大きい影響力をもっているらしいぞという認識が広まったわけだ。

●「オランダモデル」とはどういうモデルか

オランダモデルの中身はパートの均等待遇と言われていますが、パートと言っても、日本のパートのような不安定雇用、短期雇用ではなく、正社員の中で労働時間の調整をして短く働ける働き方を選ぶようにする、つまり短時間労働という意味です。フルタイムは三五時間以上ですから、それ以外はみんなパート雇用です。長期雇用でその会社に勤め続けるケースでも、二〇時間で働く人、三二時間で働く人、あるいはもつと短い人もいたりという形ですから、不安定雇用で簡単に首を切れる人を増やしたということではないということが分かりました。

オランダはもともと専業主婦が非常に多い国だったんです。それで女性が働きに行こうと思ったときに、フルタイムを選ぼうと思つたら子どもを預かってくれる場所がないということで、女性の方から、育児をしながら働くためのシステムがほしいという声が上がったという面があります。

人間の労働は、お金をもらって働くペイドワーク（有償労働）と、お金がつかないけれども社会的に有用な労働である家事・育児・介護等々のアンペイドワーク（無償労働）に分けられるという考え方がずいぶん浸透してきましたが、そのアンペイドワークの保障をどうするかというときに、ハード面で育児施設が足りないのので、労働時間を育児に合わせて調整しようとしたということです。この部分が、当初、日本ではほとんど省みられていなかったんですね。

ところが、最近になって少子化対策等々で多少この部分に目が向けられるようになって、去年、日経連が視察に行っています。日経連の今年の労働問題研究委員会報告の中では、正社員の働き方に短時間労働を育児期間だけでも入れてもいいのではないかとという問題提起が導入されています。ここはとても新しい点です。日経連の人に聞きますと、その場合、不安定雇用で時給が非常に安い日本のパート労働と、時給ベースで比べた場合に高い賃金で同じような職務を担当している正社員のすりあわせをどうするのが大きな問題なので、すぐというわけにはいかないけれども、方向性として検討してもいいのではないかと、という程度の変化は与えたということだと思います。

ゼンセン同盟も去年一二月にオランダに視察団を派遣しています。ここは女性の組合員も多く、パートを多く抱えるサービス産業も多い労組です。今日の資料の中にゼンセン同盟のご了解を得て、その調査報告書から各種統計を転載しています。調査団長にどうですかと聞きましたら、パートの均等待遇によって育児の時間を保障するということは結構できるかもしれないという印象を持ったと。つまりパートの待遇を全部上げるというのではないが、同じ職種のものについて同じ時間給なり同じ保障をするという方向性で変えていけば、一種の短時間勤務制度を導入できるのではないかという面で参考になりました、という感想を述べておられました。

女性のアンペイドワークを保障する一手段として、「労働時間を調整できる権利を保障する」という視点が日本でもようやく出てきたということです。ただ、オランダの場合も賃金も時間に合わせて減らすという約束なので、日本でやった場合、労働時間が減った分の賃金をどうカバーするかというのが問題にはなってきます。ワークシェアリング政策とは、仕事を分け合った結果、労働時間が減り、賃金も減る状況を政策でカバーして、生活を立てられるような仕組みをつくることです。ですから、パートをどんどん増やして、労働時間も短くして、食べら

れなくても知らない、というのはワークシェアリング政策ではありません。単なるダウンサイジング（減量経営）です。そこを日本ではちよつと混同されているんじゃないかと私は心配しています。

つまり、どのように安全ネットを張り巡らすかということがかなり大きいテーマになってきている。オランダの場合、いろんな福祉のシステムがあつて、生活が一番厳しいと考えられるシングルマザーでも、生活保護に相当する保障措置がしっかりとっていて、失業してもそれさえあれば結構なんとか食べていけるし、短時間労働を選んでも年金段階で極端に不利にはならない。日本では労働時間を短くすると、年金の受給額もすくなくなくなつてとても不利なんですけれども、そうした担保をいくつかしていることが分かつたわけです。

これらのことがオランダモデルの特徴だと思ふんですが、なぜこういうことになつたのか、その背景を簡単に説明したいと思います。

●オランダモデルの背景Ⅱオランダ病

先ほど、オランダはたいへんな病気の国だつたと言いましたが、「労働不能給付」というものすごい制度がありまして、病気になつたりちよつと働けないという状況が

出てきますと、働いている前の賃金のほぼ一〇〇%が出て（現在は七〇%に削減）、仕事を辞めても食べていけるという制度があったんですね。取材では、例えば、鬱病になつてちよつと体調が悪いという時にお医者さんに認定してもらつと、仕事を辞めても一〇〇%給付が出た。離婚して気持ちが悪くて働けないという理由でも認定されるという結構気前のいい給付で、この労働不能給付によつて、労働市場を出ていく人がすごく増えたんです。

なぜそんなことが可能だったかというところ、オランダには北海油田があつて、油の値段が非常に上がつて好景気が続いた時期が六〇年代からずっとありまして、そういう一次産品を扱っている会社では高い賃金が出せた。それに引きずられて他の産業の賃金もどんどん上がり、しかもオランダは専業主婦の国、お父さんが家族を全部養うという社会、どこかの国と似てますよね、賃金は一家全部を養える賃金を保障するという発想です。

もともと一人当たりの賃金ベースが上がつてるところへ、これに連動して上昇した労働不能給付を一〇〇%出すわけですから、高水準の不能給付がどんどん支給されて財政赤字がかさむ。働かなくても一応何とか食べていけるから失業する。会社も賃金が高いから人を雇いたくないので人を減らす。辞めさせるときは「きみには労働

不能給付が出るんだからいいじゃない」ということで辞めさせちゃうと、このような、不能給付にみんながたかるモラルハザード（倫理的危機）のような状況になつたわけです。

先ほど育児に関しては福祉が不足しているという話をしましたが、聞いてみると高齢者福祉はかなりしっかりしていて、パートという形で短時間働いても、失業しても、一応なんとかなつちやうという社会で、全般的に見れば大変な高福祉国なのです。

インタビュしたライデンの国立民族博物館の学芸員の男性も、「生活のことで心配したことはない」と言うんです。なぜかというところ、教育費はほとんど国が出してくれるし、教科書もタダだし、失業してもさっきの労働不能給付などが結構出るからなんとかなる。だから働く側が短い労働時間を自発的に選べる条件がわりとあると言つていまして、日本でほとんどんパートを使つて安く上げるという話とは全く違う状況だということには、ご理解いただきたいと思います。

賃上げをするとそれに連動して労働不能給付の掛け金も上がりますから、賃上げしても保険料で取られてしまひ、意味がないという状況にもなりました、それがあまりにもひどい状況になつた一九八二年に「ワッセナー合

意」というものをやりました。

これは政労使が賃金を抑制する約束をするわけです。政府は政府、労は労働組合、使は使用者側です。こんなことでどうやったらできるんだろうと皆さん思われるでしょう。物価はちよつとずつ上がるわけですし、誰も賃金抑制なんて賛成しないと思いますよね。ですが、ここでは、賃上げをやっても、福祉の方に保険の掛け金で取られてしまうと、手取りでは増えないという発想ができる。パートを増やして、均等待遇にして人を雇う数を増やす、その代わりに賃金抑制に応じるという約束だったわけですから、さすがに日本と同じように、使用者側もパートの均等待遇は高くつくから困ると思つて、ちよつと抵抗しました。パートを増やすと交通費とかいろいろなものがかかりますから、それを一人ずつに支給するとコストはかかるわけです。けれど、今となつては「結構よかつた」と言つています。

なぜかといえますと、オランダでも産業構造が変わり、メーカーが減つて、サービス産業が盛んになってきます。すると人手が必要な時間と要らない時間が出てくる。必要な時間に優秀な人に来てもらいたい、あまり安い賃金では人も集まらない。短時間でも長期雇用の人と同じ時給は保障するので、わりといい人が来てくれて

生産性が高まつたと、説明していました。

ですから、使用者が必要なときに比較的良好な人材を調達することができ、政府の方は財政赤字を減らすことができ、労働側は賃金抑制はあるけれど雇う数を増やしてもらう、それを仮に世帯単位で考えますと、お父さんは賃金抑制、けれどお母さんは均等待遇のパートで子どもを見ながらちよつと稼げるということで、世帯賃金はちよつと上がる。男が「1・0」で、女が現状では「0・5」ぐらい働いて、所帯でみたら「1・5」になつていく。だから男性の賃金抑制分を均等待遇で働く女性のパートが補つて余りあつた、これは何人かの方が指摘していましたが、個人消費はそれによつて活性化するということです。ふつうは賃金抑制をしたら個人消費が減り、縮小再生産で経済は悪くなると考えられますが、そこを女性のパートによつて補つた、しかも日本のパートとは違つて時間当たりは均等ですから、それで活性化したのではないかという推論が出ています。

パートを均等待遇にして賃金抑制分を補いつつ、保険料も抑制し、財政赤字が減つた分を一部減税に回して、女性のアンペイドワークを保障して育児と仕事を両立させる。こういう方向の三方一両損なのか、三方一両得なのかよくわかりませんが、いろんな要素がじわじわと混

じり合つてなんとなくうまくいったね、というのが、今
言われているオランダモデルだと思います。

国広 「オランダモデル」とはどんなモデルかというお話
をしていただきました。パートの均等待遇というときの
パートの内容、賃金抑制策としてオランダモデルが成立
してきた背景などがわかりましたけど、賃金が下がり、
物価が下がるという日本の今の状況で聞いていると身近
にも思います。

次にオランダモデルの意図するものはいったい何だっ
たのか、男を変えるとか、ジェンダーの意識を変えるこ
とにどういう意味を持つのか、あるいは持ちうるのかに
ついて、久場さんにお話ししていただきます。

◎久場 嬉子さんのお話から

●オランダの「コンビネーション・シナリオ」とは？

久場 シンポジウムのタイトルにある「オランダモデル
は男を変えるか?!」について、どうして「男を変える」
問題なのかと思われたかと思うんです。パートの均等待
遇ということであれば「女を変える」問題だと一般には
思われていますが、オランダモデルは捉え方によつては、

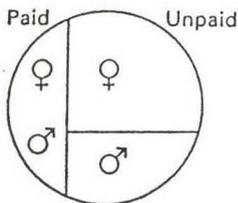
「男を変えるか」というのがテーマになるんですね。

私がこれからお話しする「コンビネーション・シナリ
オ」は、失業問題を主に取り上げているポルダーモデル
（「ワッセナー合意」による試み）とイコールではなくて、
それと関係はあるけれど、特にジェンダーの問題に焦点
を当てたシナリオであり、ペイドワーク・アンペイドワ
ークの再配分をどうするかについて考察したものなので
す。そしてそこでは、「女をどう変えるか」ではなくて、
「男をどう変えるか」、つまり「伝統的な男性の働き方を
どう変えるか」というのが最大のテーマになっています。

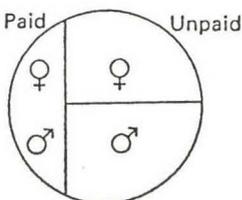
竹信さんがオランダモデルの基本を押さえてください
ましたが、一九八二年にオランダモデルの出发点である
「ワッセナー合意」が成立します。そしてその後、一九九
四年にオランダ政府は専門家委員会に、「女性がペイドワ
ークでよい機会を得るためにアンペイドワークの再配分
をいかに促進すべきか」、そのシナリオを検討して欲しい
と提議をしました。委員会で二年近くかけて検討した結
果、四つのシナリオ（左図参照）が選択可能であるとし、
しかし後で述べるように、四つの理由で「コンビネーシ
ョン・シナリオ」を選択すべきだと提案をするんですね。
そこで九六年にオランダ政府は「コンビネーション・
シナリオ」を未来（二〇一〇年を目標）の政策形成のガイ

オランダにおける
無償労働の4つの再配分シナリオ
 (「無償労働の再配分のための
 未来シナリオ委員会」1995)

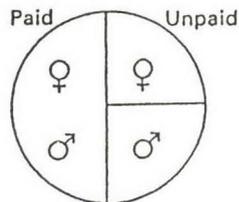
○シナリオ1：現状維持型



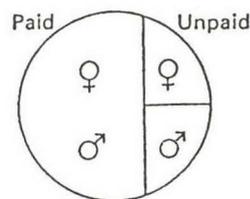
○シナリオ2：割当て型



●シナリオ3：コンビネーション型



○シナリオ4：外部委託型



ドラインとして選ぶわけです。
 何についてのコンビネーションかといいますと、ペイドワークと「ケア」なんですね。ペイドワークと「ケア」のコンビネーションの四つのシナリオのうち、三番目が「コンビネーション・シナリオ」です。
 シナリオ4は「外部委託型」と訳しましたが、家庭の中で主に担ってきた育児を外部へ委託する。外部の一つは政府、公的サービスであり、二つめは市場、つまりお金で市場サービスを買うことです。このシナリオには、公的サービスに委ねるスウェーデンモデルが入ります。私は基本的にはスウェーデンモデルが望ましいと思っていますが、コンビネーションモデルはそのスウェーデン

モデルを全く否定するのではないけれども、少し違った形に変形させている。なぜそうなのかということが、一番興味深いところでですね。
 まず、シナリオ1（現状維持型）、シナリオ2（割当て型）は中央に線を引いて、左右でペイド・アンペイドを分割し、上下で男性・女性を組み合わせる形になっています。シナリオ1はブレッドウィナー（パンの稼ぎ手）モデルといって、世帯主である男性、稼ぎ手がペイド部分を全部担い、女性がアンペイドをすべて担う。これは九〇年代に入るとオランダでもそれほど典型的ではなくなり、その変形の家計補助型に変わってきています。ですから伝統的性別役割分業及びその変形がシナリオ1、2

ですが、委員会ではこれはダメと結論づけている。その理由として、意外にも「ケアの質を落とす」からだと言っています。つまり、女性に割り当てることによって、公的サービスの形成ができない。結局、やせ細ってしまった、もたないと見ている。オランダの高齢者サービスは、公的サービス、NPOのサービスを含めて充実しているので、今ここで問題にしているケアは子育てを主としています。障害者のケア、高齢者のケアも含まれますが、一番重要な問題としているのは子育ての問題です。

なぜブレッドウィナイモデルがダメかというと、サービス経済化、グローバル化の流れの中で、もはや今までのようにそれが主流となることはあり得ない。つまり経済構造の転換で、伝統的性別役割分業・ブレッドウィナイモデルは維持できない。それにしがみついているとケアの質が低下する。だからシナリオ1はダメだと委員会会

は言っているんですね。
スウェーデンは公的サービスにケアを委託し、公的サービスを充実させながら、男性も女性もフルタイムで働くというシナリオを、オランダよりもはるか先に実行してきました。「コンピネーション・シナリオ」の特徴は、「子どものケアは両親（ジェンダー中立で、専業ではない）のケアと、外部委託（特に公的サービス）との組み合わせ

せで行う」という点にあります。つまりフルタイムの働き方ではなく、「大パート」という形での有償の仕事と、無償のケアの仕事とのコンピネーションによって、女性も男性もケア責任を担う。

つまりコンピネーションは、ペイド・アンペイドのコンピネーション、公的サービスと私的、つまり両親のケアのコンピネーション、男女のコンピネーションといふ、いくつもの要素のコンピネーションと捉えられているんですね。一つのモデルをあげて考えますと、両親ともに「大パート」（週四日就労、二九時間〜三三時間）一日八時間として週休三日ですから、土日以外の一日を両親が異なる形で取ることによって家庭でのケアを行うというものです。

皆さんがオランダモデルという言葉で見聞きされている「1・5モデル」とは、この「コンピネーション・シナリオ」で問題にされているのですが、このように考えると、「1・5」はフルタイムの「1・0（男性）」＋「0・5（女性）」ではない。オランダが、二〇一〇年までになんとかそこに近づけたいと考えているのは、「0・8＋0・7」とか、「0・8×2」とか、そういう「1・5」なのです。

「大パート」というのは、正規の常用雇用で短時間の、

つまりパート労働ですが、短時間でも二九時間から三二時間ぐらゐまでのパートを合わせれば、世帯収入としては十分やっているとモデルを作ったのです。それには、フルタイムとの法的平等化（九六年に成立）、公的保育園の充実、最低賃金制度の改善を条件としている点も大切です。

●なぜ、「コンピネーション型」なのか

ところで、「コンピネーション型」を選んだ理由としてあげられているのは、次の四つ、①遅れて出発した女性の労働市場参加（育児施設等の不足）、②長期の経済的展望を提出しているという認識、③男性の労働市場参加パターン、メイール・バイアスな有償労働の構造的な変革を目指す唯一の戦略という評価、④シングル・マザーの経済的自立にとつて有効という判断です。この②と③は非常にラディカルな提言だと私は思っています。

まず②についてですが、なぜそれが長期の経済的展望を提供できるのか。スウェーデンモデルはケインズ経済政策による福祉国家の建設ということがベースにあります。ケインズ経済政策とは有効需要を創り出し、経済成長政策を押し進めてそのパイを再分配する。基本は経済成長あつての福祉という考え方です。もちろん経済成長

は基本的に必要ですが、しかしグローバル化の時代にどの程度まで市場経済が拡大できるのか、という新しい問題が、今、生まれています。やはり市場的なサブシステンス（生存維持経済）というかオトノミー（自律経済）というか、そういう経済領域を片や作りながらフォーマルな市場経済をコントロールするという展望が必要というのが②の含意だと思えます。

③の問題も、たいへん挑戦的で、つまりケアを落とす従来の男性の働き方はモデルにならないというわけです。つまり、これまで男性はブレッドウィナーの賃金を獲得するためにケアを人に委ねているじゃないか、ケアの責任を落としているじゃないか、と見ている。労働者という場合に、ケア責任を負った労働者をモデルにして、ケア責任をフォーマル経済の中に入れ込む、そういう働き方をモデルにするという問題提起です。

●コンピネーションモデルの問題点

このように、コンピネーションモデルの新しい点は、男性の働き方が労働市場で規範になつて他の働き方を規定する限り、それに合わない人は常に振り落とされる、だから「男性規範を作らない」、あるいは今までの「男性規範を変える」という点にあるといえるでしょう。男性

はブレッドウィナーとして今まで専ら働いて稼いできたけれども、これからは所得を少し落としてでも時間をとる、つまり男性を変えろということです。

しかしシナリオはあるけれども今の段階でそれが実現しているかという点、残念ながらそうなっていない。現状は女性がペイド・アンペイドを両立するための妥協的モデルにとどまっていると批判しています。男性のパートタイム労働は一七％、これはEU水準の3倍近い数字ですが、一七％の中の六％は一二時間以下の男子学生働き方なのですね。ですから男性が自発的に選んでいるパートタイム労働は一一％です。女性は六九％ですから、圧倒的に女性の妥協的働き方モデルにとどまっている。これを何とか変えようという状況なのだと思います。

ポルダーモデルもパートタイム戦略ですが、失業への対抗手段でした。コンビネーション・モデルは、男性と女性との間の社会的・経済的平等のための戦略です。その目的とするところには、まだまだ至っていないというのが今の状態です。

◎伊田 広行さんのお話から

●オランダモデルに賛成？ 反対？

伊田 オランダモデルは、「八二年のワッセナー合意で失業率を下げた賃金も抑制した。つまり労働運動が妥協した」というので、日本では経営者から注目されているのですが、失業率は確かに減ったけど、パート労働は女性が多く、「1・5」というけれど男は「1・0」のまま、女がただ安く使われているのではないか、という意見と、いやそうではないという意見があつて、そこがいま議論になっているんですね。

いま言ったように、財界や行政の人たちはフェミニズム的視点がないから、失業率を押しさえ女性が増えてパートが増えるからこれを日本も真似しようと、単純な動機のものが多いんです。『仕事と家庭生活の調和—日本・オランダ・アメリカの国際比較』（日本労働研究機構）を書いた前田信彦さんも、基本的にはその視点に立っていると思います。彼の考えでは、スウェーデンやアメリカでは、女はえらく働いて稼いでいるけれど家庭を大事にしている。オランダ型というのは、従来の仕事か家庭かという二元的発想を越えて、ゆとりある生活時間の中で仕事も家庭も重視しようとしてるんだ、と彼はまとめるわけです。

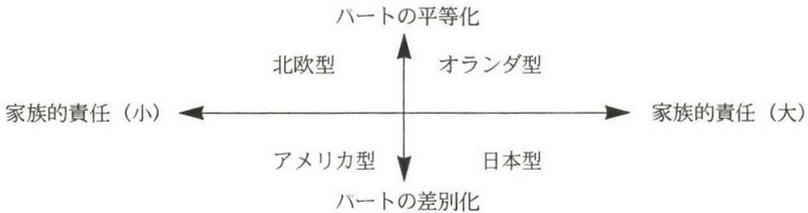
それを示すのが、彼の本の中にある「仕事と家庭生活の調和の累計化—国際比較」（図1）というものです。そ

れを見ていただくと、「パートの平等化」という縦の座標軸で見ると、北欧やオランダは法律でパート差別は禁止されていますから上に、日本やアメリカは下、つまりパートの差別化の方向です。一方、「家族的責任」という座標軸で見ると、家族にあまり介護や育児を任せないアメリカや北欧に対して、オランダは家庭も大事にするとして、日本と並んで「家族的責任(大)」の方に分類しています。そう分類した上で、女性が介護や育児をする日本的な家族重視と近いから、オランダモデルは受け入れやすいだろうと、肯定的に評価しているんですね。

オランダはもともと、ドイツと並んでカトリックの影響もあって性別役割分業の強い国です。それで、「最近一部変わってきた」という意見と、「いや、まだあそこは女性を安く使っているんだ」という意見とがあり、EUの中でもフェミニニストの間でもオランダモデルをどう評価するのかということをめぐる評価は分かれています。

失業率は確かに低下し、この二〇年、特にこの十年間、女性の社会進出も、家事分担や男女平等も進んでいる面があります。九〇年から個人単位の税制に変えて、パート差別はだめだという実体を作って、九三年と九六年にはパート差別を禁止する法律も作っています。

図1 「仕事と家庭生活の調和の累計化--国際比較」



前田信彦 (2000) 『仕事と家庭生活の調和--日本・オランダ・アメリカの国際比較』(日本労働研究機構) P139

図2 欧米主要国の労働者1人当たりの年間平均労働時間 (時間)

	1973	1979	1983	1990	1996年
オランダ	1.724	1.591	1.530	1.433	1.372
ドイツ	1.804	1.699	1.686	1.562	1.508
フランス	1.771	1.667	1.558	1.539	1.529
スウェーデン	1.557	1.451	1.453	1.480	1.554
英国	1.929	1.821	1.719	1.773	1.732
アメリカ	1.896	1.884	1.866	1.936	1.951

出典：OECD, *Employment Outlook* 1997

●スウェーデンは労働時間が短い国

問題は、ではスウェーデンとはどう違うのかということなんです。図2を見てもらおうと分かるのですが、オランダの年間労働時間は九六年で1372時間。これは女性のパート労働の平均が短いからなのですが、それに対してスウェーデンは1554時間。つまり、スウェーデンは「2・0モデル」とか、男も女もアンペイドワークを社会化してすこく働くと言われているようだけれど、実は労働時間が短い国で、家庭生活も大事にしているということが言えます。

スウェーデンもオランダもフルタイムは週三五時間から四〇時間ぐらいが多く、夫婦二人で働いていても週八〇時間位で、「1・5モデル」といわれる働き方でも五〇時間から六〇時間。つまりスウェーデンはフルタイムが多いので労働時間はオランダよりちょっと長めですが、それでも世界の中では短めです。

ヨーロッパの中でスウェーデンは男女の労働力率の差が一番小さいのですが、その女性の高い労働力率は、育児休業制度が整って賃金を八割保証して、保育所に入りたい人はちよつと高いけれど全員入れる。児童手当も付くというようない一九七〇年以降の政策の成果なんです。

スウェーデンはパート差別が世界で最も実質上少ない

国で、オランダはその意味ではスウェーデンに近いと思います。ただ、久場先生が言ったようにオランダでは従来からの性別分業が強く残っていたため、今でも育児施設が足りないもので、二〇一〇年に向けてどんどん保育所を作ろうとしている段階です。オランダは急速に女性が働いてきているけれども、まだ男性と女性の労働力率の差が大きく、その意味ではまだ限界があるので、これから「コンピネーション・シナリオ」に添ってより女性が進出していくことで、男女の平等化が進むだろうと思います。オランダをモデルとして我々がこれから見習うべき意味はむしろそこにあるんですね。

しかし考えてみれば、日本の男は週五〇時間から六〇時間、多ければ七〇時間ぐらい働いている。週四〇時間という法律があつても一日に残業を四時間すればすぐに六〇時間になってしまう。スウェーデンとかドイツではほとんど残業というのはいないんですね。スウェーデンも週三五時間のフルタイムワークが多い。つまり短時間労働の正社員がオランダにもスウェーデンにもいっぱいいるという感じですよ。

ですから、オランダとスウェーデンを対立させたいうえでオランダモデルを日本の未来形とするのは不安だという久場先生の意見に僕も賛成で、このことは後でまた論

点にしたいと思います。

スウェーデン、ドイツも、労働運動側が目指しているのは労働時間短縮です。年間一五〇〇時間レベルからさらに週休三日というのがヨーロッパでは目指されています。まだ実現は一部ですけれど、我々が目指したいのは週休三日ということなんです。週三〇時間から三五時間ぐらい男も女も働くということがオランダモデルが提起していることで、日本はまだまだそこまで行っていません。男の働き過ぎがある。そうした男の働き方を変えるものとしてオランダモデルをとらえたときに初めて、日本でオランダモデルを学べる、というのが僕の伝えたいことです。

●年収三〇〇万円で生きていける社会システム

結論は、まず、オランダをスウェーデンとの違いにおいて理解するのではなく、スウェーデンとの近さにおいて理解すべきじゃないかということなんです。その上でさらに、グローバル化のなかで経済成長率はもつと落ちざるをえないし、環境問題を考えても、大量生産、大量消費によってごみをいっぱい出すのは止めようというのが我々の展望ですから、オランダもスウェーデンも日本も含めて、もつと短く働いて、ケア労働、無償労働をよ

り生活に組み込んで、一方の性に偏らず男も女ももつと育児や介護を地域で担っていくという意味で、オランダモデルの希望があるかなと思います。

そう考えてくると「1・5モデル」という言い方が混乱するのだと思います。オランダが「1・5モデル」というとスウェーデンは「2・0モデル」で、両者は違うみたいでしょ。日本こそ夫が家族分働いているから「2・0モデル」とも言い得るんですよ。しかし稼ぎ手が一人だから理念からいえば「1・0モデル」ともいえる。混乱してくるでしょ。だからこの言い方はやめた方がいいと思います。

スウェーデンも、一週間の労働時間を二人で八〇時間から七〇時間に減らそうとしている過渡期です。日本は二人で一〇〇時間を越している人たちがいっぱいいる。それを二人で五〇時間位の水準まで落とすとして、なおかつ夫婦合算で「1・5」とみるのでなく、一人ずつみんながパートタイマーでも生きていけるというように、個人単位で考える。

時給二〇〇〇円位以上で週三五時間とする。年間二〇〇〇時間で年収は四〇〇万円になる。一五〇〇時間で三〇〇万。一人年収三〇〇万位で生きていけるようなシステムができるかという点、社会保障を充実させればでき

るんです。その議論は後に回しますが、そういう意味でオランダモデルを理解しなければいけないのであって、「1・5」という世帯単位の数字に惑わされないことが大事だということでもまとめます。

●日本でのシナリオを作る際の問題点

国広 だいぶ分かりやすくなつて来たかなあという感じ
です。具体的なイメージとして労働時間が一五〇〇時間
で年収三〇〇万でいける社会という具体的な話で日本の
現実を引き寄せることができたと思うんですが、オラン
ダの「1・5モデル」や「コンヒネーション・シナリオ」
を日本にいかしていくことを考えたときに、どういう問
題があるかということを手短にお願いします。

●選択肢・安全ネット・アンペイドワークの再配分

竹信 今のお話でとてもわかりやすくなつたと思います
が、伊田さんのお話は、生活の質の問題をかなり重点的
におっしゃつたと思います。私はオランダモデルが注目
されているのは、基本的に世帯主義賃金の限界というか、
マクロの経済つばい言い方をすれば、一人にドカーンと
お金をあげて世帯主義賃金で特定の人に働かせようとい
うのがもう限界がきているということだと思います。冷

戦が終わり、東側が市場経済に参加して、さらにアジア
諸国も工業化している。安い賃金の人々が良質の製品を
量産し始めた社会で、同じようなものを作っていれば、
高賃金では国際競争力からいつてもたない。だから、
一人あたりの賃金は抑制して、女性も含めて少しずつ働
き、小回りのきく労働市場に変えていく必要に迫られて
いるのではないでしょうか。

オランダもこうした状況をなんとかして脱出しようと
して、いろんなことを考えた。女性のロビーイングも加
わつて、私も働かせろということになって、今、男が
「1・0」、女が「0・5」くらいなのかな。ですから日
本も、いつまでも「母ちゃんを食わせる労働運動を」と
いうのではダメなんだということを、この辺でそろそろ
認識したほうがいいと思う。じゃあそれならば賃下げし
てみんながごはんを食べられるようになるかっていうと、
これが日本の一番怖いところで、日本はそっちの方を強
く言った途端に食べられない人が続出する社会なんだろ
うなと思うんです。

それで、オランダは九六年に労働時間差別の撤廃をし
ているんですが、その内容は、時間給、年金、最低賃金、
教育訓練など全部にわたる差別撤廃です。さらに二〇〇
〇年に労働時間調整法というのができて、これは働く側

が何時間働くかを申請できるという法律です。これはみなさんもびつくりされるかもしれませんが、さすがにオランダの使用者側も、そんなことをやったら会社が潰れると反対し、会社が従業員の要請を受け入れたら経営に重大な支障が生じると立証すれば申請を断れるという条項を入れさせた。立証責任は会社にあるんです。ですから働く側が「私はこの一年間週休三日でいきたいです」と言って交渉して、会社が立証できなければOKしなければいけないんです。

なぜこんな法律ができたかという、男性対策だと言われています。つまり女性のパートは、ああいう国ですから使用者側もOKするんですが、男性が短い時間働きたいと言くと、やはり「男のくせにね」と言われるので、その時に「男だつて短く働きたいんだ」って申請できるための権利を担保するというのが労働時間調整法です。

というわけでいろんな手をちゃんと打っている。ですから日本でも働く側が選べる範囲を増やすということ、賃金が下がった場合の安全ネットをどうやって作るかという問題、女性が引き受けてきたアンペイドワークを分担しあうということが、これから賃金を抑制しようとするなら必要になってくる。

●介護労働を、日本でのシナリオの突破口に

久場 正規で常用の、フルタイムと均等待遇の短時間労働を日本でどう作るかということに可能性があると思っています。

その突破口、風穴は空けられる。オランダは既に介護の社会化は進めているので、現時点ではケアに関しては子育てを問題にしています。ところが日本でケアは子育てと介護が同時に課題として出てきている。だからオランダよりもっと困難な課題を抱えています。それを自覚して、目下、特に高齢者介護の領域で何兆ものお金が動いているわけですから、そこで正規の常用の権利の確立した短時間労働を作つて、それを市場メカニズムに乗せるなりして、他のところに影響を及ぼすシナリオを作るべきだと思っています。

●個人単位を社会の基本に

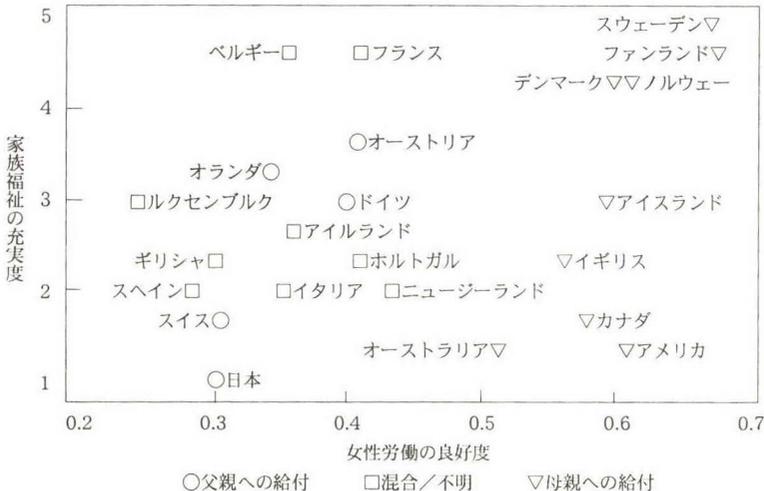
伊田 私もまったく久場先生と同じ結論です。ブレッドウイナーモデルとは、稼ぎ主が男性一人という家族単位のことです。しかしそれとは別の個人モデルというものもある。シーロフの福祉国家類型(図3)で見てもらうと、横軸が女性労働の良好度で、右に行くのは女性の賃金が上がったり女性の管理職が増えるということです。縦軸

は家族福祉の充実度で、育児や介護とか家族に関する福祉で対G N P比でお金をちゃんと使うと上に行きます。

スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランドなどの北欧諸国は両方の要素を満たして右上に位置しています。女性も男性もみんな個人として短く働く、短時間労働者でも正社員として働く。ここにあるのは九〇年代前半ですから、オランダはここではまだだいたい左にいますけれど、女性の進出が増えるに従って右上に向かいつつあると思います。

スウェーデンは国民負担率七〇%以上と世界で最も高く、税金、保険料を合わせるとすごく多い。それに対して日本はその半分ぐらいで最も税金の負担が少ない。アメリカもそうです。だから財界や政府の人はアメリカのような方向を目指しているのだけど、自民党は妥協の政治スタイルだから徐々にという形で構造改革を遅らせている。そうでなく、ゼロ成長でも所得からかなり払うようにして、自分のこのお金は何に使われるか分かるような形で税金が出される仕組みを作っていく。週一時間も働けばきっちり税金を払う。年功賃金ではなくて、一時間二〇〇〇円から四〇〇〇円ぐらいで年一五〇〇時間、男も女も働く。そこへ向けて変えていきますよというメ

図3 シーロフの福祉国家類型 (女性の福祉と労働環境から見た分類)



Source: Siaroff 'Work Welfare and Gender Equality.' in D.Sainsbury (ed) Gendering Welfare States.SAGE.1994

出所：岡沢憲英・宮本太郎編『比較福祉国家論』法律文化社。(1997) 24ページ

ツセージを今すぐ出して、男の賃金を引き下げる。その代わり女性も働いて、社会保障を充実させて、どんな人も暮らしていけるという仕組みを作りながらやるのが、オランダから学べる示唆じゃないかと思えます。

国広 一言ずつ、感じられたことや提案したいことをお願いします。

●家族単位のリナ

伊田 最近の朝日新聞の記事ですが、高校生の女の子が「私は彼がいつもおごるからいやだ」というのに対して、男性の回答者が、「いや、対等というのは必ずしも同じお金ということじゃなくてね、あなたは愛情とか与えているでしょ」と言った。アムロ・サムのカップルを使つて話題になった、男性の育児への参画を呼びかけた厚生省のポスターに対して、自由党などから「家庭のことに口を出すな、家庭のことは夫婦で話し合っていればいい」という声が出てきた。これが保守なんですね。これにどう勝つかということなんです。

確かに夫婦のことは夫婦で話し合えばいいんですが、その質が問題です。夫婦で分業するのはお互いにメリットがあるからです。一人は料理ができないけどすごく稼

げる、一人は稼げないけど料理はできる、だから協力する、というところで止まることが、家族単位のリナなんです。でももし僕らが自分一人でも生きていけるなら、好きな人と暮らしたとしても、収入も家事も半々で、でも愛し合うというようなスタイルになりうるわけです。

つまり世帯単位でものを見るかどうかは、ここの発想があるかないかです。財界とか保守の人だけではなく、我々や若い世代も含めて、みんながそのへんの区別がまだまだできていない。せつかく若い子が疑問をもつても、大人が「愛情があれば……」と言えば、そうかなと思つてしまう。私はお金は出していないけど、確かに彼に微笑みあげてるしお弁当作つてあげてるし、十分よ。この感覚を僕らがどう見直すかというのがこれから課題だと思います。

そこを政策的に言うと、一〇三万円の壁を廃止し、パートの賃金が安すぎると主張して、社会保険料をちゃんと払う代わり税金はちゃんと使えと言うようにする。一部の男が一時間あたり五〇〇〇円以上の賃金となつているのは高すぎると主張する。そしてスウェーデンのように税金はいっぱい払う。「相手のため」だと思つて愛の名の下に家事とかをしてあげてたら、なかなかパート労働の安さは解決しないのではないかなと思います。

オランダモデルを「1・5モデル」と理解するから分
かりにくいのであって、個人単位という言葉で表した方
が、オランダモデルの正しい理解につながるし、それは
パート労働を短時間正社員制度にすることだと思
います。

●社会的合意の形成

久場 昨日、有明の国際会議場で少子化に関する国際シ
ンポジウムがありました。ノルウエー、フランス、ドイ
ツなどいろんな国の方からの報告の中で「超低出生率」
という言葉が出てきていて、イタリア、スペイン、日本
がその超低出生率の危険にさらされているという指摘が
ありました。それにどう対応するかについて、「広範囲に
わたる社会的・経済的な変革が必要になるので、それは
非常に困難だ」という厳しい指摘もありました。

オランダでは、六〇年ごろまでは伝統的性別分業が根
強くあって、それが八〇年代に入って大きく変わる。大
きな変革をどう実現したのかその経過を後づけてみます
と、やはり「社会的合意」を形成させていった。使用者
と労働組合が社会的パートナーとして議論し、社会的合
意を作り上げていく。さらにこの社会的合意は政権や政
党の政策に生かされなければいけない。オランダの労働

党政権はそれを生かしていくのです。

私たちは、個々の利害が対立するような厳しい状況に
置かれています。それをいかに乗り越えていくか、超
低出生率の罠にはまらずに、たくさんの選択肢の中ら
どのよう合意を形成し、どこを手がけていったらいい
か優先順位をつけていくこと、それを考えていくことが
すごく大事ではないかと思うんです。今のままでいくと、
経済成長もだめ、高齢化の問題も非常に大変なことにな
りかねない。

ノルウエーの方が、ノルウエーの出生率が維持されて
いるのは、社会に希望がある、社会の質が維持されてい
る、この二つのためです、と言われたのは印象的でした。
家族政策は必要ではないですか、家族のために時間を使
う、資源も使う、それがなぜいけないのですか、という
問題を提起されたんですね。

●「結節点」を理解する

竹信 先ほど会場の皆さんからのお話の中には、主婦の
就労の問題、一〇三万円の壁の問題、パートの均等待遇
の問題、シングルマザーの話もありました。こうした問
題の「結節点」は何かというと、日本は、夫が家族の面
倒をみるために、つまり、夫を長とした家族が基本的

は福祉責任を負わされるシステムを維持するために、あらゆる資源を投入している社会だということだと思いません。

主婦の就労が難しいということは、主婦が家にいるように夫にお金をあげてるからで、オランダは専業主婦の多い国だったのが、個人単位でないとダメなということとが次第に分かってきて、政策も変わってきています。

例えば、以前は夫の控除に妻の控除をつけていた。つまり、夫が自分と妻の分を両方控除にして申請すると税金が安くなりますよね。それを今年から専業主婦の妻の分を夫が申請してはダメで、妻の分は本人が申請しなければならなくなりました。所得はゼロですが自分の控除分の書類を作って申請すると、実額で妻個人の預金口座に振り込まれて、夫は控除を受けられない、こういうちよつと変わった個人化に着手しています。つまり「あなたも家事労働をやっているのだから、夫と一緒にして依存しないであなたの分を自分で取りなさい」ということですよ。

何もかも世帯主の夫に全部集まる。でも夫はリストラされるかもしれない。その基盤はぐらぐら崩れているのに、未だに夫や父親が養うに決まっているからという前提で、ある意味では買ったたいて、パートやフリーター

の若者をどんどん作っている。

お父さんが本当に養ってくれて、絶対リストラされないというなら、好みの問題はあると思うんですが、それはそれでいいかもしれません。けれどそんな前提はもう保証されないかもしれないし、すでにそういう事態が来ているのに、未だにそれを理由にしている「嘘」を許してはいけないと思うんですね。パートにも均等待遇で賃金を支払うべきだし、お父さん、夫がいるからということとを理由にして欲しくないわけですよ。そういうことの確認をこの場でしたいと思いますし、みんなが抱えている共通の問題はそこなんだということです。

●メディアに情報提供させる

それからもうひとつ、久場さんが社会的合意とおっしゃっていましたけど、一番問題なのはメディアがそういう情報をきちんと流しきっていないということです。

メディア内でも厳しいつばぜり合いが行われていて、年金の個人単位化の推進を書きたいという記者と、世帯主義を脅かすので、そんなことは書くなという意見がせめぎ合っている。それに対しては、そういう記事がほしい、パートの均等待遇の情報をもっと出してほしい、ということを読者の方からもきちんと言っていかなないと。

自分に必要な情報なんですからね、これは「圧力」ではなくて消費者ニーズです。

労組もメディアも、政官財みんなそうかもしれないけれど、上の方にいる人たちは、男にお金を集めていくことで利益を得られる人たちが集まっている。でも数からいえば、本当に数の多い私たちはそういうのはもう止めてくれと、そうした意見を早く人々に知ってもらうための重要な手段のひとつはやはりマスメディアですよね、そこで情報を集めて一齐に全国に頒布するわけですから。

そうしたことを少し意識してやっていたら、もっと早く変わるんじゃないかという気はします。

国広 ちよつと私のことも言わせていただきます。私はずっとパートで働いてきて、三年前にフルタイムになったんですが、ものすごく給料がいいんです。年功序列にあてはまったため、もらいすぎなんです。どうして同じ人間で、同じような仕事してこんなに違うのかと、本当に異様に思いました。ですから、高い給料をもらってきただけの人たちが、今のパートの人たちの厳しい状況を実感としてどのくらい理解できるのかなという疑問もあります。立場の違いはあってもいろいろの人がオランダモデルやスウェーデンモデルから学んで、その中のいいところ

をどのように取り入れて現実化していくか、今日はそのための話し合いの場だと思うんですね。ですから会場の皆さんからも意見をいただきたいと思います。

◎会場との意見交換から

●年収三〇〇万円をどうとらえるか

A 日本の経営者側でオランダモデルが好意的に受け入れられているということですが、これが悪い方に利用されるのではないかと、パートの賃金をちよつと上げて常勤の賃金が下がる危険性を感じて、恐いなと思いました。

伊田さんから時間給二〇〇〇円という話がありましたけど、二〇〇〇円じゃとても生活できません。一五〇〇時間なら三〇〇万円、半分税金を取られて一五〇万円で、今の日本で生活できませんか？

伊田 年収三〇〇万円では生活できないという意見もわかるんですが、庶民の多くは二〇〇〇円どころか時給七〇〇円、八〇〇円で働いているわけで、一方で高すぎる人たちがいる。僕の友だちには年収一〇〇万円で暮らしている人もいるし、シングルマザーで年収一五〇万円や二〇〇万円で生きざるをえない人たちもいるわけです。そういう人たちにとっては年収三〇〇万円は希望なんで

すね。

スウェーデンは税金もたくさん払うけど大学の学費はタダです。学生は自分で学生ローンを借りるので、親は大学生の子どもをもつていても金がかからない。そういう社会保障制度、介護はもちろん基本的に保証されていますから老後の貯蓄をしなくても安心して暮らせる。

そういう意味で、住宅費も学費も高くて社会保障もない日本で、三〇〇万はきついというのわかりませんが、根本的な発想として、世帯単位的な考え方でいまの貧困な社会保障を前提に考えるのではなく、社会連帯的な社会保障制度に変えることと連動して賃金水準も決まるわけで、その時には年収三〇〇万円でも暮らせるはずですよ。

竹信 もし二人だったら六〇〇万円ってことですよ。

伊田 そうです。もちろん一人で暮らせることが大事で、そういう人が二人で同居すれば六〇〇万円になるわけです。

●日本での短時間労働の動き

B 「週間労働ニュース」で読んだのですが、兵庫県が連合兵庫と経営者の三者で話し合ってワークシェアリングのガイドラインを作ったということですが、その実態についてお聞きしたい。またそのような動きが日本で見ら

れるのか。そして行政と組合と経営者との連携について、お考えをお聞きしたいと思います。

伊田 兵庫県では短時間公務員制度を進めています。県は裁判などを起こされたら困るから、最初から期間は一年、伸ばしても二年までと決めていきます。社会保険には加入するけれど、初任給レベルしか払わないので、正規の公務員から比べれば給料は半分以下です。つまり今のパートよりはちよつとまじだけど、正規公務員を増やせないというのでそういう職員を増やした。連合もガイドラインを出したので、連合中央も連合兵庫も、理念としては少し進みつつあるけれども、実態はまだまだ安上がりに使われている面がある。

では具体的にどう進めるのが有効かということですが、短時間正社員制度については、僕もこれを進めたいと思います。日本では、スパーなどでオレンジ〇〇社員、〇〇メイトなどと、一応「正社員」と呼びつつ非常に限定したものになっている。それをどれぐらい均等待遇にするか、中味を獲得するかというのがポイントです。「均等待遇二〇〇〇年キャンペーン」などで目指している方向で、賃金・雇用制度の見直しの流れに乗りつつ、均等待遇、男女平等の中味を獲得すればいいんじゃないかというのが僕の考えです。

久場 具体的な進め方として、まず三〇〇万円のことについては、直接に私たちが手にする賃金と、社会保障などで再分配する分がありますから、例えば住宅、教育、老後という三つの大支出が安くすめば、手取り収入が少なくてもよい。つまり間接賃金で再分配部分を厚くすれば、手取りは少なくても済むわけです。そして社会保障については企業も負担するべきです。

私が今の日本の政策で一番分らないのは、消費がふるわないといっているわけですが、将来に不安があるから消費に回さないわけですよ。中小企業に働く人の生計が悪くなっているという記事が先日も出ていましたが、中小企業では共働きでやっているのに、なお生活が苦しくなっている。経済政策、産業政策に正しくつなげていくためには、ちゃんとしたデータをもってきちんとした政策をつくれる政権を、いかに作るかが非常に大事だと思っています。

●賃下げではなく賃金抑制

C オランダ型の場合、どのへんの賃金水準で妥協したのかお聞きしたい。

竹信 賃下げではなく賃金抑制で、賃上げをしなかったということ。加えて均等待遇でパートの時給はかな

り高いわけですから、半分働けば、同じ職種であれば額面通り半分来る。当然、世帯で見れば収入は上がる。一人の場合も賃下げではなくインフレ分が出ないという程度のことですから、日本の春闘で言われたような賃下げというレベルの話では全くないということを頭に入れておいた方がいい。賃下げでは妥結できないのではないでしょうが。

いくらぐらいかということですが、オランダの生活賃金(最低賃金)は二〇〇ギルダー前後と言っていますが、一〇万円〜一二万円というレベルで、スウェーデンと同じように社会資本の部分、教育費は国が払ってくれるのでなんとか食べる分があればという額ですよ。オランダ人は大変質素で、服を買うためにお金を稼ぐ暇があったら家に帰って洗う時間が欲しいというライフスタイルの人たちですから、そこは日本とかなり違いますし、発想の組み替えが必要だろうなと思います。

久場 日本では、オランダモデルについて、「賃下げに労使で合意した」という話をよくしていますが、「ワッセナール合意」は、単なる賃下げではなかった。つまり、賃上げを抑制する代わりに労働時間を減らす、そして実質の生活水準を維持するために政府は減税をする、つまり実質的には減税で生活水準を維持するという方法をとつ

たのです。

●均等待遇への道

D 私は社会保障を全部パートにも適用するのが均等待遇の一つの道かなと思っています。雇用者からすれば今のパートは手放せないと思うけれど、日経連の提案している短時間正社員制についてのお考えを。

竹信 短時間正社員の話ですが、私もいろいろ調べたんです。郵政省が短時間正社員（短時間勤務職員）を作ったんですね。取材したら「全く均等待遇だ」と言っていました。働く時間は半分の四時間です。集配業務は、前日に集めた郵便物を午前中に仕分けするんですが、かなり早い時間に四時間の山があつて、それを過ぎると暇で、次に昼間集めたものを夕方仕分けする山がある。その二つの四時間の山に必要な人を調達するために作ったもので、「必要なときに必要な人」というシステムです。

伊田 あれも三年までの有期契約雇用だし、ボーナス等を考慮すると全然、均等待遇じゃないです。

竹信 もちろん契約雇用で、問題は、その下に非常に安いパート雇用がいて、短時間雇用の均等待遇職員が安いパートの人を統括していたり、お金を配達するような信用の必要なものを短時間勤務職員がやっているという現

状です。同じ仕事をしていて時間給や年休など、勤務時間以外は全部一緒なんですね。

ですから発想としては意見が真つ二つに分かれています。一つはパートの均等待遇が初めて出てきたものとして、ある程度評価してもいいじゃないかという意見、これは短時間職員がいいということではなくて、この部分で初めて均等待遇という思想が出てきたということについて研究者の中で評価する人がいるということです。もう一方は、非常に忙しい時間の厳しい仕事だけをさせるためだけに、しかも四時間しかやらせてくれないなんて食べられない使い捨て労働だ、という意見です。

伊田 契約が最高三年というのは根本的におかしいよ。

竹信 そうですね、兵庫県方式も一年という有期雇用ですが、私は、今のこの情勢でどうしてもこれをやらなければならぬというんだつたら、つまり団塊世代はちつとも出ていかないし、正社員の賃金は下げられないということであれば——つまり彼らはこう言っているわけです。「これは訓練期間、インターンシップだ。そこで仕事の仕方を覚えてもらう」と。訓練ならば、訓練制度、資格制度をつけなきゃいけない。一年間訓練したらこの資格がとれて、次にそこそこの段階に行けますよというのがあれば、百歩譲歩して、あつてもいいかなと思ってい

います。

というのは、とにかく職業訓練が悪すぎるし、今の段階ではミスマッチがありすぎて、必要なところに人がいないわけですから、欲しいところに人が行けるような手段として、有期雇用が全部ダメというのもこの情勢では難しいというのも分かるので、次にフルタイムの仕事につながるような訓練をセットにするしかないというのが私の発想です。

●日本型短時間正社員の落とし穴

E 短時間公務員制がワークシェアリングにひっかけて広がろうとしていて、私はそれに反対なんですけど、郵政省の短時間職員も、新しく公務員を増やせないからパートを増やしているんですよ。でも郵政省にはそれ以前にも本当にたくさんパートが働いていて、そういう人たちが均等待遇の短時間職員にするならまだしも、ユウメイトなどのパート女性は切っている。実際は退職した人とか男性が多いと思うんです。学校職員でも産休の代替要員とか時間講師、外部委託している学校給食の調理員のパート職員などをどんどん切っていて、定年退職した男性が戻ってきている。私の加入している労組でも、年金の支給が六五歳になったので、六〇歳〜六五歳まで

の定年退職した人の短時間職員を増やそうという方針を出しているのですが、実際は男性ばかり。パートの女性が多すぎるから、男性がまたそこに増えていく。これが日本型短時間公務員制だと思います。

竹信 公務員だけでなく民間もそうなんです。失業がどんどん増えているこの状況で、ヨーロッパはむしろ厚生年金の交付期間を前倒しで早めたその時期に、日本は五年遅らせたわけですから、民間でもこの五年をどうするかは大きなテーマになっていて、そこに元正社員の定年退職した男性を短時間職員として再雇用しているわけです。メーカーなどでも高齢男性は「金の卵」だと言っていて、要するに三〇年、四〇年の試用期間があったようなもので、会社への忠誠心が強いから絶対に訴訟なんか起こさない、部分年金が入ってくるから安くても文句を言わない、そして非常に技能は高い、それで定年退職男性がいいということになっている。

伊田 今までのパートの人を短時間公務員とか短時間職員にしないと、正社員と再任用の高齢者の短時間職員と従来の安いパートという三層構造になるわけですね。

国広 最後に何か補足があればお願いします。

●個人単位の働き方をイメージした社会のあり方を展望

伊田 スウエーデンで実際に一年間暮らしてみても、世界で最もましな国だな、豊かで人々が助けあっているなという印象を持っています。家族の絆が薄いか離婚が多いと言われますが、日本も家庭内別居とか離婚は多くなっていますし、むしろスウエーデンでは離婚しても子ども心が傷つかないような仕組みをつくっています。

年収三〇〇万が高いか低いかということですが、ヨーロッパでは職種ごとの賃金水準については、社会的な基準が、労組あるいは企業などいろいろな中で徐々につくられていったのです。日本はそれがないので、意識的につくらなければならない。

世界のペイエクイティ（賃金の平等化）の運動は、基本的には企業内だけではなくて労働組合も参加して社会的に話し合って水準を決めていき、しかも見直す。日本はかなりそのことを意識的にならなければだめです。簡単ではないですが、やろうと思えばできます。今の年功賃金を見直そうと経営者も言っていますが、見直し方が全く恣意的で、企業中心で従来の男・家族単位を基準にしている。これを変えるのが、労働運動も含めて市民側の対応になるかなと思います。

●均等待遇のシナリオ

久場 「社会的合意」の問題ですが、日本で意識的につくっていくかなければならないのですが、また日本ではそれが非常に難しい。労働組合と企業者がナショナルレベルできちんとした話し合いをするというようになっていない。特に労働組合が政策形成に発言力をもつようになっていない。また「社会的合意」は労使の問題であると共に、もう一つ政治立法というレベルの問題でもあるわけです。この領域でどういう合意を作るかを考えるのがひとつの課題でしょう。

もうひとつ、大変具体的な課題として、私が提案したのは次のことです。最初に申しましたように、オランダのコンピネーション・モデルでアンペイドワークと言っているのはとりあえずは子育てです。介護の社会化はかなりの歴史を持っていてデンマーク並みとされている。しかし日本では介護の社会化は、今、始まったばかりです。今私たちが社会的な合意が作れそうな分野、実際にお金が動いていてそこに需要があつて、サービスを供給しなければならぬのは、子育てと共に介護ケアがある。ところが介護保険後、今までパートだった人たちが登録ヘルパーに回っちゃおうといったことが起きている。一〇〇%近く女性が担っており、しかも四〇代、五〇代

の女性が介護の仕事をやろうとしている。どうしてそこで均等待遇の短時間労働がつかれないのか、私たちが決心して政治的に選択すればいいのか、それを「社会的合意」にまでもつていくにはどうすればよいか、それを考えるのが、当面一番現実味のある課題だと思います。

●働き方の発想の転換

竹信 均等待遇にするとやる気のないパートの人はどうするんだというご質問がありました。正社員でもやる気のない人はいっぱいいる、という大前提がまずあります。オランダモデルの場合は、正社員の長期雇用の中で短い労働時間が選べるということですから、労働時間が短いからやる気があるとかないとかいうのではないのですね。

日本の場合は格差がありすぎて、やる気が起きないというのがあります。何度も聞いたのは、「なんでこんな低い賃金でひどい不安定な働き方で正社員と同じことを要求されるわけ？」という声がパートの中からわき起こっていて、これは鶏が先か卵が先かということになるのですけど。均等待遇にして責任を持たせて仕事の内容が明確ならば、後は正社員と同じでその人のパーソナリティの問題。やる気のある人ない人、能力のある人ない人の問題ですよ、今はパートだからというので、格差があ

りすぎるのに同じ仕事を要求しているという非常にひどい状況があると思うので、ちょっとそのへんは偏見かなという気はしました。

オランダはそんな長時間労働はしません。できる範囲の中で生産性を上げる。できないことは翌日にやるだけの話ですよ（会場笑）。そういう腹のくくりかたは大事なんです。できないのに時間が無限にあると思つてやるからなんです。それは私が住んだことがあるシンガポールでもそうです。同じオフィスで働く秘書は、仕事の優先順位をいつも考えて段取りし、午後4時半になると帰る準備を始めます。その日のうちに絶対にやらなければならぬものでなければ、「明日でいいですね」と上司の了解を得て帰つちやう。

オランダでもみんなが週休三日やつているわけではなく、業種によつては週五日出なければならぬ仕事もあると言っています。ただ残業はそんなにしていない。仕事の運び方、合意が違うんですね。だからその合意をまずつくるといふか、その中でまず何ができるかということをつくり返して考え直してみればと思うんです。きつい要求かも知れませんが、何をやっているか、ジョブ・ディスクリプション（職務を洗い出して書き出してみること）を書かせてみて、何にそんなに時間取られているの

かというようなことを精査し直してみたらいいんじゃないか。日本は仕事をスクラップ・アンド・ビルドしないんですよ。時間を短くするとか言って、いけない仕事を減らさないものだから、労働密度が上がっちゃって死ぬ思いをする、仕事を減らすというのはいらない仕事を減らすということですから、そのことをもつときちんと書き出して、何がいるのかいらぬのかやってみるのは重要なことです。

国広 発想の転換というか、根本的なことを変えなくてはならない問題であり、今ある社会システムを前提としたまま「何とかモデル」を取り入れるという話ではないということにはわかっていただけたかと思えます。

すごく大きな構造的な課題と、具体的に今何をすればいいのかという問題提起や提案が出てきました。それぞれの活動の場で取り組んでいただければと思います。みなさん、どうもありがとうございました。

(2001年3月24日・東京ウイメンズプラザホール/まとめ・編集部)

新クラススタート! フェミニストカウンセリング講座

2000年4月17日(火)より10:30~12:30(週1回・全40回)

◎会場=フェミックス◎定員=8名 ※定員に若干余裕があります/途中参加可能

● **CR(コンシャスネスレイジング)** 4月17日(火)スタート

毎週(全10回)受講料 32,000円

● **AT(自己尊重・自己主張トレーニング)** 7月3日(火)スタート

毎週(全10回)受講料 32,000円

● **セクハラ相談員養成講座** 10月16日(火)スタート(全20回)

受講料 20回一括64,000円(分納の場合33,000円×2回)

セクハラ相談員になるための講座です。対象者はCR、ATの体験者、今までフェミックスのカウンセリング講座を受けたことのある人、及び相談の経験のある人に限ります。

通信制「自己主張トレーニング(AT)講座」

言いたいことが言えなくてイライラしたり、自分を責めていませんか?

表現したいけれどできないでいること、苦手な分野を発見して、日常生活の中で実際に課題を実践し、その報告を手紙ですという形式をとります。

◎受講料全12回35,000円(1年間/12回)



詳細はお問い合わせください。

Femix
フェミックス

◎お問い合わせ・お申し込みは下記までどうぞ。 TEL/FAX 03-3424-3603

E-mail femix@mail2.alpha-net.ne.jp

ホームページ: <http://www3.alpha-net.ne.jp/users/femix>

東京都世田谷区池尻3-2-3-703 (〒154-0001)

郵便振替 00130-7-754314 富士銀行池尻大橋支店 1501277

東急新玉川線(渋谷より1駅3分)池尻大橋駅下車西口より徒歩1分

食の歳時記

坂本 薫



目に青葉 山ほととぎす 初鯉

五月は艶やかな若葉が目にもまぶしい季節だ。コブシや桜の花に霞んでいた山々も、五月ともなると新緑に覆われ、目を見張るような旺盛な生命力で夏に向けて緑を深めていく。

そして初鯉。よく知られているよ

うに、日本列島に沿って南の海から黒潮に乗って北上する鯉は、秋には南下し始める。秋に獲れるこの「戻り鯉」は脂がのつて美味とされるが、有名な表題の句のせいか、鯉は青葉の季節のイメージが強い。

鯉といえば何と言っても鯉のたたきだ。勤務先の調理学実習でも、五枚におろした鯉を火であぶり、たたきをつくる。最上とされるわら焼きではないが、ガス火で焼いたたたきでも、切り身で売られているような鯉のたたきとは雲泥の差でおいしい。

ところで、新鮮な鯉の内臓や腹身の部分をよく見ると、白い米粒のようなモノを発見することがある。これは、テナクラリアという寄生虫。ほじくり出してまな板の上に並べておくと、ぐにゅぐにゅとナメクジのように動く。少々気持ち悪いが、うっかり食べてしまっても大丈夫らしい。アブナイのはアニサキスの幼虫

で、アニサキス症を引き起こす。

このアニサキス、サバやスルメイカに多く、鯉では内臓でとぐろを巻いているのを見つけることがある。イカには身にもよくいるので、刺身で食べる時には注意が必要だ。イカの身を光に透かしてみると、透明感のある白い筋肉が不透明に白くなっている部分が発見できる。そういうところを包丁の先でほじくると、2cmほどの糸くずのようなアニサキスの幼虫が出てくる。ほじくり出してはまな板の上に並べていくと、うねうねとのたうち回っている。ほじくり出されて苦しいのかなあと思いつつも、これを食べてしまったら、私の胃壁に入り込んで、激しい腹痛を起こしていたかもしれない。と思うと、同情なんてしてられない。

とは言っても、アニサキスでも一旦冷凍されたものであれば生で食べても大丈夫である。天然の魚は寄生

虫と共存しているのだから、いて当たり前と考え、過敏にならずに対処していきたいものだ。

ところで、鰹は魚類の中でも最高レベルの遊泳力を誇り、時速40kmからなんと100kmもの速さで泳ぐという。しかも、えらを通る水から酸素を取り込むために一生涯休まず常に泳いでいる。こんなすごい遊泳力の源は血合い肉で、鰹には血合い肉が多い。血合い肉は鮮度が落ちやすく生臭いので、生食には向かないとされて取り除かれることが多いのだが、血合いにはビタミン類、ミネラル類が非常に多く含まれている。実習では、取り除いた血合いはしょうがとともにしょうゆとみりんを炊いて「鰹の佃煮」にするのだが、鮮度がよい場合は、次に紹介する「味噌たたき」がおすすめだ。生臭みを消す効果のある味噌、しょうが、ねぎとんにくをたっぷり使って、冷やしていた

だ。もうひとつ、「鰹のカルパッチヨ風」は、鰹のたたきに飽きたときに。マグロで同様に作っても食べやすいが、鰹で作ると鰹独特の風味がオリブ油と合い、おいしい。鰹のたたき以上のおいしさかもしれないと密かに思っているほどだ。

◎血合いの味噌たたき

(材料) 鰹の血合い・味噌大さじ1、2杯・んにく1かけ・しょうが1かけ・葉ねぎ数本

(作り方)

- ①血合いは血合い骨をていねいに取り除いて、細かく切る。
- ②みじん切りにしたんにく、しょうが、ねぎと味噌を①と合わせ、まな板の上でよくたたきながら混ぜる。
- ③冷蔵庫でよく冷やしてから、ねぎの小口切りをのせる。

◎鰹のカルパッチヨ風

【材料】(4人分) 鰹³⁰⁰g・レモン1/2個・エクストラバージンオリブオイル75ml・たまねぎ1/2個・ルコラまたはサラダ菜4枚・パセリ・塩・粗びきこしょう

【作り方】

- ①節取りした鰹は血合いを取り除き、軽く塩をふって金串を末広に刺し、皮の方から強火にかざし、皮に焦げ目をつける。身の方は表面が白くなる程度に焼いて冷水に取り、冷めたら水気をふいて5mmの厚さに切る。
 - ②んにくをこすりつけて香りをつけた皿に、塩、こしょうをふった鰹を並べ、レモン汁を振りかける。
 - ③オリブ油を回しかけ、パセリのみじん切り、おろしんにくを散らして冷蔵庫で冷やす。
 - ④たまねぎは薄切りにして水にさらした後、水気を切っておく。
 - ⑤③の皿の中央に④のたまねぎを盛り、ルコラ(なければサラダ菜)をちぎって散らす。
- (さかもと・かおる/イラストも著者)

シュークリームをつくる

池田 久子
五和東中

●はじめに

シュークリーム……私も大好きですが、今の子どもたちも大好きなお菓子のひとつです。「シュークリームを作るよ」と言うと、「やったー!」「へー、作れるんだ」「できるんですかー」。おかし作りに凝っている子どもなどは、「あつ、シューが難しいんだよねー」など、答えます。調理が好き、食べることが好きなことがよく分かります。それは、子どもたちにエネルギーがあること、だから、「うれしいねー。喜んでくれてー」と、ちよつとオーバークションで答えたりします。ちなみに、私は、熊本県は西部、天草の本渡市に住み、勤務校は、その隣町です。

《材料》

【シュー…二〇〜二五個くらい】

水(二〇〇g)、小麦粉(二〇〇g)、
バター(七〇g)・マーガリンでも可、
塩(小さじ四分の一)、卵(四個)

【カスタードクリーム】

小麦粉(二〇g)・大二、コーンス
ターチ(二〇g)・大二弱、かたくり粉
でも可)、さとう(一〇〇g)、牛乳
(五〇〇cc)、卵黄(二個)、バター(一
五g)

《作り方》

【シュー】

①なべに、水、バター、塩を入れ、火
にかけてバターを溶かす。

②沸騰したら火を止め、ふるった小麦
粉を一度に入れ、手早く混ぜる。

③再び火にかけ、木杓子で底から強く

混ぜ、ボール状になるまで火を通す。

④火からおろし、卵を一個入れてはよく混ぜ、なめらかになったら、次の卵を入れて、木杓子で持ち上げると、ぼつとりと落ちるくらいの固さになるよう、混ぜる。(②③④がうまくいかない時、シューの膨らみ具合に開るので、要注意です。特に、④の時、最後の一個は、半量ずつ入れて、様子を見た方がよいと思います。しかし、ここで卵を入れる量が少ないと膨らみません)

⑤オーブンを二〇〇度に、温めておく。

⑥天版にオーブンシートまたはアルミホイルを敷く。アルミホイルの場合は、うすく油を引く。そこに、四で作ったシューの種をスプーンですくって、間隔をあけて並べる。

⑦二〇〇度のオーブンの上段で一、二、一三分焼き、次に温度を一六〇度以下げて、しばらく焼く。この焼き加減とオーブンのふたを開けるタイミング次第では、しぼんでしまったりもします。

【カスタードクリーム】

①なべに卵を入れ、木杓子でほぐして少量の牛乳を入れてのばす。

②さとう・小麦粉・コーンスターチまたはかたくり粉を入れて、ダマにならないようによく混ぜ、牛乳を入れる。

③火かけ、絶えず混ぜながら、中火で煮る。なめらかになるまでねる。

シユーの膨らみ具合は、オーブンの癖によっても、また並べた場所によっても変わってきます。「おおっ！ふくらんだ！」と言う感激の声もあれば、オーブンの扉を早く開けすぎで、「あーあ、しぼんじゃった」と落

胆の声もあります。うまくいかないことも多々あります。そんなに簡単にはうまくいくなら誰だつてプロだし、失敗は成功のもとと考えるようになりました。できるだけ成功させたいので、その工夫や努力はします。しかし、うまくいかなくて当たり前的气氛持ちも必要かなと最近はあるようになります。また、カスタードクリームを作るときに残った卵白は、時間的余裕があるときは、メレンゲ菓子にしたりもします。他に何か良いお知恵がありましたら、教えて下さい。

ここまで読まれるとお分かりと思いますが、かなりたくさんの卵を使用する料理です。シユーが膨らむのもこの卵の性質を利用したものです。そこで、卵の調理上の性質を学習したり、卵の色と飼料の関係を知らするために「おいしんぼ」や「ためしてがっテン」などのVTRを見せたりしま

す。VTRを見せると、市販の卵の黄身が異常にオレンジ色に近いのは飼料に着色料が使われている事実と関係があることに、子どもたちは気づきます。それは、黄身の色が濃い方がよい卵という、私たち消費者の思い込みと無縁ではありません。その背景には、大量消費する私たち消費者側の問題点や、生産効率を最優先させねばならない生産者側の問題点が存在しています。また、卵の価格はここ何十年と変化しないため、『物価の王様』と呼ばれることなども学習できます。私の場合は、生徒のなかに養鶏場を経営している家庭があり、そんなことも含めて、何をどこまで学ぶのかも迷いながら授業したこともあります。卵を学ぶのか、調理法を学ぶのか、卵で何を学ぶのか、年はくつても、まだまだです。

曲がり角の家庭科 ⑦

家庭科教育の幻想(1)

梶原 公子

●孤食は増大する

はじめから私事で恐縮だが、私は一人暮らしになって一年、したがって基本は「孤食」である。先日飲み友達Kさん(男性)に何気なく「孤食」の実態を話した。

たいていは帰宅後、ビールを飲みながら夕食の支度をはじめめる。その日の気分や食材の加減で2、3種類の料理を作る。お弁当の支度もする。出来上がったら、新聞や郵便物、週刊誌やテレビなどを見ながら一人で食べるのよ……。

Kさんは目を丸くして、信じられないと言った。「家に帰ったとき誰もいないなんて淋しすぎるよ。お疲れさまと家族が言ってくれるとほっと

するよ。一人で作る料理はわびしいし、だいいち僕は家で一人でビールを飲むなんてことしたことないよ」

あんたって信じられない生活しているんだねえ、とまで言われてしまったが、信じられないと思うのは私も同じだ。暗い家に帰って電気を点けるのが嫌な亭主、というのはい聞いたことがあった。それは過去のことかと思っていたら、目の前にその一人がいるのだ。最近では、一人で食事をするのが淋しいため、昼食を一緒にする約束をとったりする「ランチメイト」症候群というのがOLや女子高生の間に広がっているというから、中高年男性だって、「孤食」は嫌だといってもおかしくはない。

私は「孤食」は楽しい、と負け惜しみでなく思っている。もちろん不便なこともある。カレーやシチュー、炊き込み御飯などは、一度作ると4、5回同じ物を食べるか、誰かを呼んで一緒に食べるかしなければならぬ。しかも、毎食自宅で一人分だけ作る、というのも面倒なことである。

しかし、食べるのは自分だけだから、必ずしも手作り料理を毎日作らなくても良い。コンビニやインスタント、冷凍、出来合い食品、外食など何でも利用する。最近では、周囲に一人暮らしをしている友達もいるから、時には一緒に食べることもある。

かつては、家族揃って手作りの家庭料理を作るというのが、食の基本

だった。私もそのような食生活を長年営んできた。しかし、家族は年月とともに変容する。少子高齢社会の進行とともに家族の規模は確実に小さくなり、単身世帯が増加する。それは、高齢社会においては誰もが一人暮らしの可能性を持ち、誰もが「孤食」を余儀なくされる可能性が生じるということに他ならない。

そして「孤食」は「共食」のようにいつも手作りというわけにはいかず、コンビニフードや冷凍食品、インスタント食品、出来合いのおかず、外食などの消費社会の生み出した食形態に頼る度合いが増していく。家庭における食生活は、かつては手作り「家庭での生産」一辺倒であったものから「消費」へと重心を徐々に移しつつあることは間違いない。

●手作りは趣味

先日、所用で小学校を訪問し、50

代の女性の教員と学校給食の話をした時のことだ。その学校は自校方式で献立も大変工夫しているため、児童の人氣が高い。父母を対象にした給食参観日もあるという。その参観日で出された白身魚料理の評判がよく、母親から「自宅でも作りたいから、レシピを教えてください」というリクエストがあったという。それに応えて栄養士さんが「給食だより」にレシピを載せたのだが、ほとんどのお母さんは自宅で作らなかつたというのだ。その理由はレシピを見ても作り方がわからない、材料が多すぎて揃えるのが大変、料理のプロセスが複雑だから作るのが面倒というものだった。その先生はこう付け加えた。

「小学校低学年だとそのお母さんは30代前半でしょ。もうこれ以下の子どもたちは家庭料理の味なんて知らずに大きくなるかもしれないわねえ」

この現実に呼応するかのようにな

インターネットが今晩のおかずの相談相手になり、食生活診断をしたり、ヘルシーレシピやエコノミーレシピなど豊富な情報が簡単に手に入るようになってきている、との記事があつた（朝日新聞3・20）。このようなことがもつと普及していけば、調理技術や栄養知識が未熟でも、ちよつとした家庭料理を栄養バランスよく作ることも可能になる。まかつたくの手作り料理というのは、もはや趣味の領域になりつつあると言えそうだ。

また私立高校の話だが、家庭科の授業で食物に関する分野だけ、実地の経験のある調理師が担当しているという話も聞く（栄養士が食教育ができるようになったという報告は、以前のシリーズで紹介した）。この動きは、家庭科教員でなくても、食教育が可能な時代が来つつあることを暗示している。

これまで学校の食教育は、食品学、

栄養学、調理学などを土台に、食文化や食の安全性、調理実習を展開していくようになっていて、体系的に食物についての知識を習得するようできていた。近年、このような手法で授業を展開していて、どうも生徒たちのニーズとどこかズレている

のではないかと、としきりに感じるようになった。生徒の多くは、米とはどのような食品か、この食品にはどのような栄養が含まれているのか、自分の食べた食事の栄養価はどうか、といったことに全く興味が無いというわけではないものの、あまり関心をそそられないなあと思うのだ。

インターネットで即座に栄養価計算されたレシピが入手できたり、コンビニで買ったランチの栄養価が表示されたりしていて、自分で計算しなくても栄養のバランスを摂ることのできる時代である。このような観点から家庭科の食教育のカリキュラ

ムを見渡してみると、食物についての体系的な知識習得というのは、どうも家庭が唯一の食事場所、しかも手作りの食事を「共食」するというのが前提となつて構成された学問体系であるということがわかる。

生徒たちの食事の実態を見ると、お弁当のおかずは冷凍食品がほとんどという子もいるし、かなりの割合でコンビニを利用し、ファーストフードやカップ麺の食事をしている。家庭での食生活を聞くにつれ、それは明らかに「消費」に傾いてきていると感じる。しかし学校の家庭科では家庭が生産の場であると想定して、体系的な食の知識や技術の習得を中軸にした授業展開している。家庭で丹精こめて作る料理が一番であり、コンビニやインスタントはなるべく避けるべきであるという、食に関する消費の面を否定したようなメッセージも送っている。このあたりは生

徒の実生活とのかなりなずれが生じてきているため、授業での生徒の反応もいまいち芳しくなくなっているのではないだろうか。

大変乱暴な言い方ではあるが、食生活に関して言えば、生徒たちは5大栄養素が何か、米100グラムにはどのくらいのカロリーとたんぱく質が含まれているか、鰹節と昆布で混合だしを取る正確な手順などはどうでもいいのである。そのような理想的な知識がなくても、とりあえず健康な食生活を送れるための方策を知りたいのである。冷蔵庫の中に今ある食材でどのような料理が作れるのか、一日500円でどのような食事ができるのか、地球環境に配慮したエコロジカルな食生活はどのようなにしたらできるのか、一人暮らしの食生活にはどのようなレシピがふさわしくどのような知恵を働かせればよいのかなど、もっと今日の多様化

した消費生活にあった授業展開に大胆に変えていく必要があると思うのだ。

学校での調理実習も、これまでは家庭ですぐに使えるものという想定があつたのだが、これからの調理実習というのは、手作業を通して心理的な安らぎを得るとか相互コミュニケーションを得るとか相互コミュニケーションを得るとか、そのウエイトを移さざるを得なくなつていくのではないだろうか。

●性的リベラリズムのいやらしさ

食生活と同様に、その変化が大きいわりに論議されることの少ないものに「性」の問題がある。20年程前までは学校あるいは公教育の場での「性」に関する態度は「寝た子を起こすな」と言うものだった。その後「性の解放」や女性の生き方の変化、「自由主義的」な考え方の広がりに伴つて、性経験の低年齢化が進み、学

校での性教育はむしろ積極的に進むようになってきた。

家庭科でも「青年期の愛と性」をテーマに多くの授業実践が行われてきたし、それは一定の成果をあげたと思う。それが、今回の学習指導要領の改訂で、「青年期の愛と性」にかかわる項目は「母性保健」を除いてすべてが家庭科からは削除され、「保健」で行われることになった。このことに関して、家庭科教員は大変な戸惑いを感じたのに違いない。なぜなら、家庭科で「青年期の愛と性」を取り上げるようになった経緯には、性別役割分業否定から発したセクシユアリティとジェンダーの問題が大きくかかわつていたのに、そのような経緯にほとんどかかわりのなかった保健・体育の、しかも男性が大半を占める教員が、この分野を受け持つことになるからである。もちろん、これまでも「保健」で「性教育」は

扱われていたから、学校の中では家庭科と保健とがそれぞれ棲み分けながら、あるときは重複しながらやってきていた。それが思わぬ方に一本化されたのである。

もちろん家庭科で行われてきた性教育にも問題がなかったわけではない。家庭科サイドで行われてきた性教育は、主に女性の「産む性」の立場に立ったものだったと思う。それは妊娠しない自由や避妊の知識と技術の習得、出産の自己決定、性感染症から身体を守る能力を養うということに力点が置かれていた。そしてそこには、また10代であつても避妊さえすれば性行為もOKというメッセージも含まれていたと思う。

したがつてこの20年の間に、高校生への性行為に対する大人の態度は寛容になつた。1年程前に出会つたケースなのだが、高校2年生のA子のことを思い出す。彼女は2歳年上の

彼氏と付き合っているうちに妊娠してしまい、結局中絶する選択をした。中絶手術には母親に付き添ってもらい、その前後の相談や経済的な面倒もほとんど母親がみた。しばらくして彼女も普通の生活に戻ったのだが、その後も同じ彼氏と付き合っていると言うので、「お母さんはどんなふうに言っているの？」と聞いてみた。すると「お母さんは『これまで通りにいいお付き合いをしてね』と言っている」という返事にひどく驚かされてしまった。彼女の母親は、娘の妊娠と中絶に対して、相手の男の無責任さに怒りを感じなかったのだろうか、娘のことについて夫と話し合わなかったのだろうか、本当に「いいお付き合い」だと思っているのだろうか……。このように言うことが物分りの良い親、娘をよく理解している大人だと思っているのだろうか……。そういう疑問が拭い切れな

ったのだが、大人の態度の「寛容さ」というのは、どうもこのように危うい部分が散見できるのだ。

人間の「性」はここ20、30年前まではほとんど「生殖」と一体になったものだ。性」は長らく女性性にとっては「生産機能」のほか何者でもなく、彼女の人生が「子育て、子育て」であることを意味していた。それが、避妊技術や医学の発達により、性交は必ずしも生殖を意味しなくなつた。女性が「子育て、子育て」の人生から解放されたのである。が、それと同時に「性」は「生産」機能一辺倒から快樂の機能へとその領域を大きく広げていった。快樂としての「性」は、「生殖」、「生産」に対して「消費としての性」ということができる。「快樂としての性」、「消費としての性」の時代になるや、性経の低年齢化も進行していった。問題は、「性」のベースである「生殖」

機能に対する実感や知識が全くない10代の少年や少女たちが、いきなり快樂や消費としての「性」を享受するようになったことにあるのではないかと考えられる。

次の文はある高校家庭科教科書の「保育」分野の中の「親になる前に」という節の冒頭に書かれた一節である。「人間は妊娠しては困るようなどきでも、セックスしたくなる動物だ。もしあなたが生まれてくる子どもに対して責任が取れないなら、セックスの時に必ず避妊しなければならぬ」

この記述そのものには間違いはない。しかし、この文脈からはっきりと10代の高校生の性行為は自由であるというメッセージが読み取れる。が、たとえ避妊しても100%妊娠しないとはいえないし、妊娠した場合は現在でも女性がその負担を大きく負うことには変わりがなく、出産

や育児には責任が伴うのである。そのような不確定要素が内包された事柄について、「避妊すれば」という仮定だけで性的な自由を認めるような記述をして良いのかという疑問が残る。

このような表現は、この教科書だけでなく、性教育において広く使われていた方法である。

しかし、10代の高校生同士で、セックスを含んだ男女の「対等」な付き合いというのは、果たして成立するものなのだろうか。「10代のうちほとんど禁欲的であれ」というメッセージを送っても良いではないか。

先ほどのA子の母親は、子どもに対して何も言わず、自由に行動させることが「理解のある親」であると考えたのかもしれない。親が感情的になって怒るのは良くない態度であると思つたのかもしれない。そして、A子の母親の態度と、先ほどあげた

教科書の一節とを見比べてみると、その依つて立つところが非常に似ていることがわかる。それは、両者とも言っていることは間違っていないのだが、子どもに対しての、大人としての立場、大人社会のものさし、子どもとしての枠組みなどを何ら提示せず、ただ耳障りの良い言葉に終始しているという点である。

例えば、「高校生のうちはセックスなどするな」という態度に出れば必ず子どもとぶつかることになる。「何をしても自由なのよ」という態度であれば衝突はない。衝突はなく、一見、親と子、大人と子ども、先生と生徒はうまくいっているようだが、何のものさしも示されない子どもはどうしてよいのかわからなくなってしまう。

高校生も含めて人生経験の浅い子どもは、さまざまな対立や葛藤の中で自分の居場所や自分の依つて立つ

ところを模索していくものではないかと思う。それがこと「性」に関しては、ここ20年ほどの間に大人はあまりにも物分りが良くなりすぎてしまった。そのような物分りのよさは「エセリベラリズム」といったほうが良いかもしれない。そして「エセリベラリズム」は、「性」が生産機能のみの時代から、消費機能へと移つていった過程とパラレルに発生した問題である。このことを考え合わせる「と、消費社会に対応した「性」のあり方を、高校生にきちんと示す方を立てなくてはならない時期であることを痛感する。

これまでのところで、「性」に関する大人と子どもの関係性について考えてきたのであるが、同年齢の生徒同士、あるいは少女と少年という関係についてはどうだろうか。今回はこの点について考えてみたい。

(かじわらきみ)元公立高校家庭科教員

連載

新・オホーツクの潮風荒く

江口凡太郎

北海道滝上高等学校・家庭科

「給食当番、2年ぶりっす！」

「えっ、やってなかったのか？」

「うん、そうじも……」

「2年ぶりで、どんな感じだ？」

「……うーん、何とも言えない」

新入生を迎えて2日目、今年度は念願の担任となった江口は給食指導を教室でしました（滝上高校は町のセンター給食です）。すると、生き生きと作業していたある生徒が「いやあ、給食当番、2年ぶりっす」と話してくれました。

念のために説明しますが、彼の出身中学校に「給食当番」がなかったわけではありません。彼は2年間、や

つていなかっただけです。ニコニコと唐揚げを配るその姿からは、とても2年ぶりとは思えない働きぶりでした。配布作業の最後には全員に行き渡ったのか確認までしているのです。でも、2年ぶりなんです。

彼は入試面接で「中学校では悪かった」と正直に話しました。「仲間」が受験した近隣高校に行けば、「同じことをくりかえしてしまう」、そう考えた彼は、通学に片道2時間もかけて、本校に來ています。まったく新しい環境で心機一転やりなおしたいという思いと、彼自身が言う「中学校のようにはなりたくない」という思いがあるのです。

しかし、本人もがんばろうという気持ちの一方で、どこまでやれるのか？という不安をのぞかせています。何とかできる限り応援して卒業までの3年間を一緒に過ごしていきたい。今日のこと、改めて強く感じました。

さらに、下校時に別な先生に声をかけられて、彼が話した別な「2年ぶり」がまだありました。「1日6時間全部授業を受けたこと」だそうです。明日の掃除当番も楽しみですが、まわりの生徒と同じように学校生活をおくること、やることなすこと次々と「2年ぶり」の連続なのかもしれません。

さて、翌日2年ぶりの掃除を、彼はピカピカになるまで何度も何度も黒板を拭きました。こんな調子で1週間が過ぎました。高校生活最初の1週間、彼は他のクラスメイト同様に皆勤ですごしました。もちろん2年ぶりでしょう。

「せんせー、土日の休みで、もとに戻っちゃうの心配なんだ、がんばるわ」「いやあ、遊びだすとすぐ、3時4時なんだよね……」。

月曜日、彼は朝から学校に來ました。

女が歳をとるといふこと

木村 栄

全くの無趣味というのも寂しくて、三味線の稽古を始めた。音色に惹かれての、六〇の手習いである。長唄の三味線で、唄は要りませんと言うわけにはいかない。好きで始めたこととはいえ、人の前で「歌」というものを歌ったことのない音痴歴六〇年の私としては、困惑の極みである。

三味線は三線譜で練習すればそれなりに弾けるようになるが、唄の方は練習の要領も分からない。

仕方がないから、夕食の支度をしな

がらテープを聞いたり、テープに合わせようとなったりしている。

今日もそう。流しの水音や炒め鍋の騒々しさに負けないように、「京鹿子娘道成寺」のボリユームを上げて蛮声を張り上げる。

恋の手習いつい見習いて、たれに見しよとて紅かねつけよぞ

くどきの聞かせどころである。段々調子が出てきて、いい気持ちでうなづいていると電話がなった。

「はいはい」と、我ながら声が艶っぽい。

「先生はご在宅でしょうか」

「はいはい、キムラは私です」

「週間読書子の編集長ですが、書評をお願いしたく」

「はいはい」

と、ハイ調子にブレーキをかけるいとまもなく、気がついたら荷の重い依頼を引き受けていた。

その前は、「〇〇市民大学の講師」だったつけ。まるで見計らったように、そんな時ばかり仕事の話がくる。

で、ホイホイと引き受けて、後で我が身の非力を呪いながら、「〇〇の法律学」や「女性学講座」と苦闘する羽目になるのだ。

六〇の手習いの功罪は、つまりそれ。未知への挑戦は大変も大変だが、努力の甲斐あつて、できなかつたことができるようになった時の嬉しさは格別である。今までできたことが段々できなくなる老いの下降線と、できなかつたことができるようになる稽古ごとの上昇線がいいバランスを保つて、落ち込みやすい気分を支えてくれる。それが功。

そして罪の方はいうまでもない。

未知の困難に挑む高揚感から、慣れた世界の困難がやや軽く思えてしまうという、私の失敗がそれである。

「嫁」の契約書（上）

竹信 三恵子

前回取り上げた育児・介護休業法改正の動きは、育児のための時間を労働時間のなかに組み込もうとする「アンペイドワーク評価の政策化」への一歩といえる。しかし政府案では、その適用対象を「正社員」に限り、働く女性の四割以上を占める「非正社員」は閉め出されることになっていく。育児・介護を支援するといいつながら、半数近くの働く女性には支援策は適用されないといった「口と手足がばらばら」のアンペイドワーク評価政策は、なぜ起きるのだろうか。今回からは、こうした正反対のベクトルが交差するアンペイドワーク評価のさまざまな現場をたどり、「アンペイドワークの評価」とは何を、どう評価することなのか、また、何を指すものなのかを考えていきたい。

●「家事」と「値段」の意味

九七年三月、勤め先の新聞社で、「家事の値段——見え

ない労働を測る」という連載を始めたとき、取材先からは「家事という言葉を使うのはやめて」とのクレームがついた。アンペイドワークとは、生産労働なのに支払われていない一部の農業や、ボランティアまで含んだ言葉である。それが「家事」という言葉で代用されれば、勤め人家庭の専業主婦の仕事に限定されてしまう、との心配からだった。

一方で、デスクは「アンペイドワークという言葉は絶対だめ」と言う。新聞は数百万人の読者を持つ巨大メディアだ。新しいカタカナ用語を使うたびに、高齢の読者からは「分かりにくい言葉を使わないで」という反発や苦情が寄せられる。「だから、定着した日本語でなければ使えない」と言うのだった。

板挟みに悩んでいたとき、ふと、「農家の女性の労働が支払いの対象として意識されにくいのは、それが『労働』ではなく、『家事』と位置付けられてしまうからではない

のか」と思った。男性が行えば「産業」なのに、これを女性が家庭の中で行ったとたん、「家事」に仕分けされてしまう。それならば、金銭で評価されない一部の農業や自営業、ボランティアなどの幅広い無償労働を扱う連載であつても、「家事の値段」で悪くはないのではないかと考えたのである。

「家事」と「値段」のふたつの言葉は、案の定、九九年に刊行された『アンペイドワークとは何か』（藤原書店）という本の座談会の中で、編者の一人の中村陽一さんという研究者から「考え込んでしまう」と批判された。アンペイドワークはもつと広がりのある概念なのに、それを「家事」に矮小化しており、また、アンペイドワークの評価を「値段」と表現するのは貨幣評価に片寄りすぎている、という趣旨のようだった。

「アンペイドワーク」は、女性が引き受けたとたん、「家事」に化けてしまう。恐ろしいのは、このからくりなのである。また、日本社会では、女性の平均賃金は男性の半分にすぎない。労働の対価としての貨幣配分（つまり労働の値段）の男女差が極端に大きい社会なのだ。「家事」や「値段」に込めたこれらの意味をわかってもらえなかったさびしさと同時に、世の中には、こうした女性たちの痛みにはほとんど無関心なまま語られるアンペイ

ドワーク論というものもあるのか、という疑問も感じた。

●「家族経営協定」に注目

農家の女性の労働は、しばしば「アンペイドワークの連鎖だ」といわれる。農業女性を語らずしてアンペイドワークは語れないともいわれる。それは、従来の農家や農村が、「女性の労働を『家事』に仕分けしてしまう動き」を容易にする強い磁場を持った場所だからではなかったろうか。

その現場を垣間見る機会がやってきたのは九七年の春のことだった。

その年の一月に母が急死し、私は抑うつ状態に落ち込んでいた。それを押しきって、「家事の値段」の連載を始めようとしたのは、アンペイドワークに追われ続けた母の弔い合戦の気持ちはどこかにあつたからだった。

農村女性のアンペイドワーク評価を取材するため、協力をあおいだのは、熊本学園大教授の篠崎正美さんだった。篠崎さんは、九五年に北京で開かれた国連女性会議の行動綱領に盛り込まれたアンペイドワークの評価の項目をめぐって農水省に農業女性についての対策を求めるなど、精力的な活動を続けていた。

農業女性のアンペイドワーク評価は、それまで父親と

跡継ぎの息子との間で結ばれることの多かった「家族経営協定」を、女性にも適用させる運動として、注目を集めていた。引き金になったのは、北京会議の開催半年ほど前の九五年二月に出された農林水産省構造改善局長・農蚕園芸局長の通達である。

「家族経営協定」とは、家族農業経営の近代化のために、家族間で交わされる労働条件についての取り決めだ。「家族経営協定の普及による家族農業経営の近代化について」と題したこの通達は、「家族経営協定」によつて個人の役割を明確化し、能力を発揮させ、収益を配分して意欲を高めようとするのが趣旨だとされている。これが「女性のアンペイドワークの評価」だと受けとめられたのは、通達に「女性、農業後継者等農業に従事する世帯員の個人の地位及び役割の明確化」などが明記され、「農家の嫁」の働きに焦点が当てられていたからだ。

篠崎さんと、女性の家族経営協定の推進に熱心な女性の農業改良普及員、飯田真志子さんの案内で、熊本県内の何軒かの農家を車で回った。

甘夏みかんの生産農家である元山幸三さん(当時五七歳)と妻の元山春子さん(当時五二歳)のお宅の広々とした庭先には、トラックが停められ、荷台には、黄色の丸い甘夏が三月の明るい陽光に照らされながら積みこまれてい

た。ほっそりして知的な雰囲気の子さんが、トラックのかげから出てきて、家の中へ案内してくれた。

後継者の長男、秀志さん(当時三十歳)によると、元山さん一家の協定は九五年十二月に締結された。労働日誌をもとに、給料、ボーナス、休日、仕事の役割などが書面化され、毎年更新時には、洗い直される。労働時間は朝八時から夕方五時まで。収穫・選別時期以外は、日曜は休日だ。

経営がピークだった九二年、会社をやめて農業に戻ってきた弟の秀男さんも加わり、三組の夫婦が農家経営に従事することになった。給料は、別居して家賃や通勤費がかかる秀志さんに二十万円、同居の秀男さんに十五万円。画期的だったのは、春子さんの提案で、「妻たちへの月給」が制度化された点だった。

幸三さんは、一家全員の衣食などの基本的な生活費を受け持ち、春子さんには月三万円が支給される。秀男さんの月十五万円のうち五万円は妻のさつきさんの口座に払い込まれる。農業と育児労働を評価しての額という。秀志さんの家庭は、妻の恭子さんが都会出身で農業に従事していないこともあり、勤め人家庭風の妻への「給料一括委託」方式だ。

春子さんが「妻の月給」を提案したのは、必要なたび

に夫に現金を請求する窮屈さにつらい思いをしてきたからだという。幸三さんは同業者組合の役員で忙しく、農業も家事も、春子さんが一手に引き受ける日々が長く続いた。「それなのに、いちいち夫にお金を出してくるよと言わなくてはならなかった。給料がほしい、とつくづく思った。息子の妻たちには、そういう思いをさせたくなかったんですよ」と春子さんは説明した。協定を結んだからは余暇もでき、休みの日は趣味のジャズダンスに出かけているという。

同じ県内の岡村淳一さん（当時五五歳）の家では、妻の由美子さん、息子の智裕さん、その妻の信子さんのそれぞれに二十万円の月給が払われる協定となっていた。

また、三十代の若さで経営を移譲された坂本光司さんとは坂本素子さんの家庭では、母と父に十三万円、素子さんには十万円の月給協定が結ばれていた。

岡村さんと坂本さんの家は、イグサなどの換金性の高い作物の比率が高く、元山さんの家と同じく、かなり豊かな部類の専業農家だ。「分けようとしても収入が少ななくて分けようがない」ために協定を結ばない農家が少なくないといわれるなかで、「協定」によって家族がやる気を起こし、女性の働きにも目が届き、それがさらに経営を振興する役割を果たしているという意味では理想の事例

のように見えた。

●専業主婦化とパート化

「でも、こういう『評価』のあり方でいいのかと疑問に感じるときもある」と、篠崎さんは、帰りがけの車の中で言った。「農家のいいところは、都会の専業主婦と違って、女性が夫と現場を踏みながら共同経営していける面白いですよね。ところが、裕福な農家では、農家の近代化が農家の女性の専業主婦化に重なってしまいそうな兆しもあって、そこに危惧を感じないでもない」というのだ。

さらに、篠崎さんが試験的に行ってきた聞き取り調査では、女性に賃金を払っている農家でも、パート並みの賃金水準で、企業で働く女性と同じように男性の五、六割といったところが多かった。男性と同じくらい農作業に従事して、さらに家事・育児も一人でやってこれだけの水準としたら、それでいいのだろうか。農家の女性たちが、「近代化」の促進の中で、企業の勤め人の専業主婦や、企業で働く女性たちと同じ格差をなぞっていくのでは、意味がないというのである。

何のために行うのか、が整理されないまま進んでいく無償労働評価の混乱が、農業の現場から見えてきたように思った。

（たけのぶ・みえ） 新聞記者

春風に乗って、
女性立つ

木村 民子

寒い寒いと言いながらも、急に春

を迎え、今年は桜も早かった。その桜前線が上昇すると共に盛り上ったのが、堂本暁子さんが当選した千葉県知事選挙だ。堂本さんは、わが区にも住んでいらしたし、TBSの記者時代、ペビーホテルを取材したドキュメンタリーを見て、私はいたく感動したことを覚えている。参議院議員になられても、「エライ先生」ブルルこともなく、気さくな親しみ易い方だった。

三年ほど前、「女性議員を増やそう」というテーマのパネルディスカッションで、私がコーディネーターにな

り、堂本さんをパネラーとして迎えたことがあった。本番で堂本さんはかなりのハイテンションで、ご自分の半生を語り熱弁をふるった。私はその時進行役として時間のことばかり気になっていたし、まだ議員にもなっていないかつたので、堂本さんがしめくくつた次の言葉をよく理解していなかった。

「私は子育てをしながら、その経験を政治の場に持ちこむことは大事なことだと考えていますが、同時に議員になつたからには、徹底的に勉強していただきたい。一方で、投票した有権者は、精神的にも、知識的にも、経済的にもいいネットワークを作つて、自分たちが選んだ議員を支えていただきたいのです。」

私が議員になつてよかつたと思つていることは、皆さんと一緒に話し合い、考え合い、励まし合いながら政策作りができることです。皆さん、

皆で支えますから、自信を持つて肩をはらずに、素直に、普段着で立候補してみたいかがでしょうか？」

堂本さんの言うように普段着で立候補して議員となつた私は、今その言葉の重みを骨身に感じている。

そして、堂本さんも千葉県知事選挙では「自信をもつて、肩をはらずに、素直に、普段着で」戦つたのだらうと思う。時間もお金もない状況で、県内に二〇〇余りの勝手連がで

き、全国からも応援者が駆けつけたという（私も馳せ参じるつもりだったが、議会と重なり、腰痛に悩みつ、目の前のことをこなすのがやつとだった。ごめんなきい。堂本さん）。

知事選を共に闘つた千葉の女性議員の一人は、「堂本さんの当選は、田中知事誕生より、数倍もうれしい」と満面の笑みを浮べた。マスコミなどでは、自民党政権の腐敗や無党派層の支持が追風となつたと言っているが、それだけではない。無所属で

も、堂本さんと同年代の男性候補者
だつたら、果たして当選しただろう
か？ 男性優位社会の権威主義、権
力のたらい回し、不透明さなどに多
くの千葉県民は辟易し、堂本さんと
いう、飾らない、普通の言葉が通じ
る、包容力のある女性に県政を託し
たのではないか？ 堂本さんのキャ
ッチフレーズのように、「保守王国千
葉が変れば、日本が変わる」というの
も、あながち嘘ではない。ここらで、
日本も「変らなくっちゃ」ね。

とここで、これからの難題に堂本
さんが果敢に取組めるよう、投票し
た人もせめて任期中は支え続けてほ
しいものだ。

堂本さんに続けとばかりに、日野
市では友人の名取みさこさんが、市
民の推薦を得て市長に立候補した。
花冷えのある日、応援の川田悦子さ
ん、龍平さんや女性議員仲間と一緒
に私も駅頭でマイクを握ったが、市

民の反応は少々冷やかだった。ここ
も自民党がバックの現市長が圧倒的
に優勢と伝えられているが、名取さ
んもぜひ花を咲かせて欲しいものだ。
「女性を議会へ」よりも「女性を首
長に」は、幾層倍も難しい。議員は
議会で何人もいるが、首長はたった
一人だ。女性が実権を握れば、介護
や子育てや教育など、住民が望む行
政への近道になる。ジェンダーの視
点から行政を見なおし、改革への原
動力になる。

ただ、首長も議員も女性なら誰で
もいいというわけにもいかない。昨
年、衆議院選で当選した一年生議員
を各党から招いて、立候補の動機や
議員としての抱負を聞く会が催され、
私も聞きに行った。保守系のM女性
議員の発言はおよそジェンダーの視
点からはかけ離れており、会場から
もブーイングがもれた（ちなみに川
田悦子さんの発言は淡々としかも心に
訴える説得力があり、私は一番好感を

抱いた。

翻つてわが区をみれば、男性区長
は前回も書いたように、行財政改革
として福祉・教育関連予算の削減を
行つた。おまけに外部監査を導入し、
図書館・出張所・保育園・育成室な
どをコストの面からシビアに監査し、
採算性の低いものは廃止すべきとい
う結論を報告させた。だいたい、こ
れらの施設にコストというものさし
を当てること自体おかし。人の手
を充分にかけなければならぬこれ
らの施設運営で人員削減を行えば、
サービスの低下はまぬがれない。公
的サービスとして行政は住民に安心
と幸せをもたらすことが役目と思っ
けれど、どうも区長はそう考えない
らしい。

首長に誰を選ぶかでこのように行
政が冷え込んでしまうのは、住民の
選択にも責任がある。

(きむら・たみこ 区議会議員)

ひげのおばさん 子育て日記 ⑫

中畝常雄・治子



自分で決める

次男友雄が中学生になった。学校に提出する書類に進路の欄がある。「高等学校進学」とでも書くのだろうか。「お父さんとしては、『コック』と書きたいな」と言うのと、「絶対嫌だからね」。これ以上言つて、親への反発だけで才能の芽を摘んでしまうのは勿体ないので当分黙つていよう。嫌と言うのも自分の選択なので尊重せねばと思う。将来何になるのかと聞くと、以前はおもちゃやデザインか漫画家と言つていたのが、今は商社マンと答える。時々会う商社マンの叔父がカッコよく見えてきたらしい。それに、絵描きだけはやめておこうと、12歳にして悟つてしまったようだ。絵を買つてもらえるし、その上感謝されるし、なかなか幸せな仕事だと思ふのだが……。千明は小学校が保育園の先生か漫画家と言う。「でもあなた、小さい子と遊んであげたりできないじゃない」と言うのと、じゃあ漫画家にする、とあつさりしたものだ。

自分を振り返ると、テレビ番組の影響を受けて新聞記者とか医者とか言つていた気がする。高校進学、大学受験と流れに乗ってきたが、受験の失敗で流れが止まってしまった。予備校が嫌で宅浪し、翌年また受験に失敗し、絵の道に方向転換した。これは大きな選択だった。結局

は追い詰められての居直りだったが、自分で決めたのでエネルギーが出たし、必死になれた。その後はまたずるずると流れに乗ってアルバイトをしながらぼちぼち絵を描いていた。祥太が生まれ、我に返った。このままでは自分の絵も作れないとバイトを整理して時間を作った。これが久々の自己決定で、思い返すとけっこうおそまつ。

友雄は4年生の頃野球チームに入りたと言いつ出した。どのくらい本気が分からない。すぐ欲しがったおもちゃも、買った途端にすぐ飽きてしまうそれまでの様子を見ていて、言葉通りには受け止められなかった。しかもスポーツクラブにつきものの親の当番を、我が家は出来ないから無理と諦めてもらった。しかし日曜日ごとに練習を見に行き、入りたそうにしていたら向こうから声をかけてもらい、我が家の事情を汲んで親の当番を免除してもらった。6年生まで参加し、「もう少し早く入っていたらレギュラーにもなれたのに」と言われたが、本人は充分楽しそうだった。彼の最初の自己決定は成功だった。義母は70歳を過ぎたが元気で交遊に忙しい。12年前に夫を亡くし、一人になってからは毎年のように海外旅行にも出かける。いつまで行けるかわからないからと誘われれば拒まない。今の義母には交遊関係は大切な生きがいだ。人生の中で仕事や子育てが生きがいの時代もある

だろうが、交遊の豊かさに人生の目標を置くとそれまでの選択も変わってくると思う。能率や効率はいらなくなり、失敗や無駄だって価値を持つてくる。だから親は情報だけ与えて自分で決めて貰えばいいのだと思う。

だれもがもう一度はやり直せない人生を思う時、あの時の失敗を含めてすべてが夷りになって今があると考えたいものだ。自分で決めていけば、きつとそう考えられると思う——いやあ、結婚が失敗だったなどと言おうとしているのではありません、誤解のないように。これまでの人生で最高の選択だったと思つています。自分で決めたのですから。 常雄

* * *

妻のいいぶん……障害児の親になることは自分で決めたわけではないので、これを納得するのに随分もがいてしまいました。障害児の親になった私が、どう生きたいか、自分で決めたくて、またまたもがいてきました。

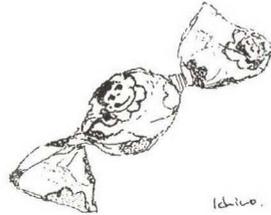
そう言えば幼稚園の頃、婦人警官になりたいと言っていました。交通安全の指導に来た婦警のネクタイに憧れてしまったようです。あの頃すでに、世に言う女らしさへの抵抗感が芽生えていたのでしょうか……。

そうそう、もちろん私だってパートナーは自分で決めましたゾ。 治子
(イラスト・中畝治子)

へたのしい〜って

大事なこと

松本一郎



たのしいことって大事だ。それがたとえ、世間一般の範疇からはずれていたとしても、その時に自分へたのしい〜と感じることって大事だと思ふ。

家のすぐ前が多摩川だった。町の外れにある河川敷の部落、そんな表現がびつたりのところだった。家の横の道のドンツキには飯場があり、興味津々で足を踏み入れたボクに、

食べかけの「都コンプ」をくれた人のよさそうなオジサン。調理場の大きな釜で白米を炊いていたおばさん。わが家の玄米食にあきあきしていたボクは、きつと物欲しそうな顔をしていたのだろう、おばさんは何も言わずに握り飯をつくってくれた。

家の隣には解体されるトラックや車が野積みになった解体屋があった。車の陰でかくれんぼをしたり、投げ捨てられ雨に濡れたいかがわしい雑誌を、やぶらないようにソーとめくった時のドキドキする胸の高まりは、昨日のことのように覚えてる。

近所の子どもたちがグループになって遊んでいた。当時はまだ近所に暮らしているというだけで、学年が違っても仲間になれた。陣頭指揮をとっていたのは6年生のやんちゃな子で、学年を一つずつ下がる形で6〜7人のグループになって一緒に遊んだ。知識豊富な年上の子から学ん

だことはたくさんあり、それを年下の子へ伝えた。それはいいことばかりではなかったが、確実に体にたまつていく何かがあった。

グループの年長のお兄さんが中学を出て働いだし、彼はオートバイを乗り回すようになった。モトクロスといつて整地していない山あり谷あり、ジャンプ台があるようなコースを周回し、そのタイムを競うモータースポーツだ。河川敷にはオフロードバイクを乗り回すようなコースが自然とできていた。中学生になったボクもお兄さんと一緒にバイクに乗り出した。単純にサッカーボールがバイクに変わったただけだ。

移動は足と自転車しかなかったボクだから、その圧倒的なスピードに恐怖を感じたが、その恐怖にもじきに慣れ、だんだんと自転車と同じ感覚で操ることができるようになった。たのしかった。どうたのしいのかと

いわれても言葉では言い切れないくらいにたのしかった。

無免許だったので、モトクロスコースまでバイクを押しで行った。最初はそれが当たり前だったのに、だんだんめんどうになり、家から直接乗って行くようになった。

今でも思うのだけど、幸せなことってじわじわと大きくなっていくのに、自分の身に降りかかる不幸は、突然予想もなかった時に現れる。まるでわざと姿を隠したまま、大きくなっていくかのよう。ある日、いつものようにバイクで家路を急いでいると、建物の陰から二、三人の警官がふいに飛び出してきた。逃げるほどの度胸もなく、バイクから引きずり降ろされ、初めてパトカーに乗り、警察署に連れて行かれた。

四畳半くらいの白いベンキを何度も上塗りしたような薄汚れた部屋の真ん中に、スチールの机が置かれた

取り調べ室は、刑事ドラマのそれとまったく同じで妙に感心してしまっただ。でも今回の主人公はふてくされた犯人と勇敢に戦う刑事ではなく、ボクと初老の刑事という設定だ。自分のことなのに、カメラでも回っているのではないかという錯覚がつきまとった。ここでカツ丼でも出てきたら喜劇だなあと、不謹慎にも思ってしまったが、今回は無免許でバイクを運転した自分のことなのだ。長い時間をかけて調書を取られ、家族の迎えを待つてようやく家に帰れることになった。

正直な話、誰も迎えに来てくれなかったらどうしようと思配したが、親父が迎えに来てくれた。警官から小言を言われ、頭を下げている親父さんには申し訳ないなあと考えた。

家に帰る途中の車内には重苦しい雰囲気か漂っていた。突然、親父が「バイクに乗るのはたのしいのか？」

と聞いてきた。無免許で捕まった帰り道なので、何と答えたらいいのかと押し黙ったが、たのしいことはたのしいことなので「うん」と答えると、親父はゆつくりとかみしめるようにこういった。

「オレも彫刻を造っているときはたのしい。でも、いつも彫刻ばかり造っているのはメシが食えないから、仕事をして、自分の時間を工面して彫刻を造っている。その貴重な自分の時間を今回のようなことでわずらわせないでほしい」。

それは、別に法を犯したことへの叱咤ではなく、とてもわかりやすく、だからこそ胸にグツとくる言葉だった。そして何よりも、多感な思春期を迎えていたボクにとつて、親と子ではなく、一人の人としてつきあってくれている彼のスタンスがうれしかった。(まつもと・いちろう／キミ子方式・講師／イラストも著者)

【会話例の訳】

A:どのくらい、あなたの夫は家事を手伝ってくれる？

B:ええ、いろいろやるわよ。彼はほとんど何でもするのよ。たと
えば、料理、掃除、子供の世話、洗濯、など。

A:うらやましい～。うちの夫は何もしないの。

B:週末はどう？

A:一日中寝ているわ。彼のお母さんは専業主婦だったんだけど、何でもやっ
ちゃう人だったのよ。彼のために料理をしたり、洗濯をしたり、彼の部屋
も掃除したりしたみたい。だからね彼は家事のやり方を学ぶことがなかつ
たのよ。

B:え～！ それはひどいわね。統計によると、日本の男性でさえ週末は1時
間半ぐらいは家事をするらしいわよ。

A:本当？ 私も夫を変えなくっちゃ。

【豆知識】

『女性のデータブック』（第3版）によれば、有職女性の「家事時間」は平日
で3時間18分、日曜日では4時間10分だそうです。一方、有職男性の場合は、
平日24分、日曜日は1時間19分だそうです。家事時間の男女差（男性1：女
性は6.7）が大きいことは一目瞭然。ちなみに、欧米6カ国（フィンランド、
デンマーク、カナダ、イギリス、アメリカ、オランダ）の平均は男性の家事
時間を1とすると女性は1.8です。その中でもフィンランドがもっとも両性の
時間差が小さく1：1.54です。

【Glossary】

cooking 料理

cleaning 掃除

do the laundry 洗濯

(a) full-time housewife 専業主婦

household chores 家事

take care of kids 子供の世話をする

●吉原さんは仲間たちと女性問題を語るための英語講座「Colors of English」を月2回行っています。

第3回（5月12日）「避妊・中絶をめぐる問題」／第4回（6月2日）「女性の政治参加」

第5回（6月16日）「性別による職業分離」／第6回（6月30日）「男女で異なる教育への期待」

（いずれも東京ウィメンズ・プラザにて・土曜日・14:00～16:00／参加費1回1500円）参加してみませ
んか？お問い合わせはフェミックス（TEL/FAX 03-3424-3603）まで。

英語で女性問題を語るための ワンポイント・レッスン

吉原 令子

(大学講師)

第2回

女の仕事？男の仕事？……性の役割分担 Women's Role? Men's Role? ……The Role of Gender

「女は外で働くべからず！ 炊事、洗濯、掃除は女の仕事！」そんなことを思っている人はこの四半世紀で多数派から少数派へと転落しましたが、それでも女性の家事労働時間のほうが男性の家事労働時間よりも数倍長いのはなぜ？ 「(妻が) 仕事をするのはいいけど、家庭と仕事を両立してほしい」、つまり、〈家事はお前がしろよ〉という身勝手な男性の意識が依然として根強いからではないでしょうか？？

【会話例】

A: How much does your husband do housework?

B: He does a lot. My husband does a kind of everything: cooking, cleaning, taking care of kids, doing the laundry, just about everything.

A: I envy you. My husband doesn't do anything.

B: How about in the weekend?

A: He sleeps all day. His mother was a full-time housewife and she did everything for him. She cooked for him, did the laundry for him, cleaned his room for him. He hasn't learned how to do housework.

B: Oh, no! That's too bad. According to the statistics, even Japanese men spend about one and a half hours on household chores on the weekend.

A: Really? I've got to change my husband!

来陽子

■子ども観を変えよ——学校改革スタート

私にとつて、その年最大の関心事は校内研究であつた。私は一年間をかけて、校内の研究の進め方・内容などを大転換するつもりだつた。そしてそのことは、明治4年創設以来不動の伝統を誇るこの学校を根本改革することでもある。私は、その具体化の鍵を研究計画書の中に用意周到に埋め込んでいた。波瀾はありそうだが、やれる自信はもちろんあつた。

* * *

今年度の研究組織は大きく二つに分かれ、教員が「希望によつて」それぞれに所属することになつた。前年度とは180度の転換であるこの組織編成は、森校長と私を含めた推進委員たちが考案した改革であり、着任2年目の森校長による「校内民主化」であつた。私は組織研究のリーダーとして森校長の「意を体し」、忠実に研究を推進するだけである。

昨年度の私は、推進委員長という初めて担う重責に張

り切つていた。「共通理解を深める」ために、できる限り綿密な原案を作り、森校長承認の下、さまざまな資料を校内で配布し、同僚から出される質問や意見にも納得がいくよう答え続けたつもりであつた。

しかし、一月に教務主任によつてまとめられた年度末反省には、「校長先生と推進委員長の独断が多い」と記されてあつた。たつた一人であつたが、多分その意見は氷山の一角なのであろう。教員の反省はいつも全員無署名で、良きつけ悪しきにつけ他人のしたことに對する意見が大半。しかもそれは感情的な内容であることが極めて多い。「言いたいことがあるなら直接当事者へ」を原則とする私は、森校長とともに「筆跡鑑定」を行つて、記入者とおぼしき人に、「意見があるなら具体的に指摘し、改善案を付けて提出すべき」旨を申し入れた。その結果出された彼女の案をもとにこの新組織編成がなされたのである。その際、私は熱心に他校の紀要などを繰つて案を捻出していた彼女の姿に感心した。こんなふうには、昨年度後半は何人かの同僚や森校長・小沢教頭とぶつかり合うこともあつたが、結果的には良いほうにことが運ばれていったのである。

私は今年度の研究のメインテーマを「豊かな言語生活をめざして」とした。前年度のメインテーマ「意欲的に

読書し、主体的に表現する子の育成」のサブテーマだったものを前面に押し出したのである。これまでのこの学校の研究テーマは、教科にとらわれ、それだけでなくも狭くならずがちな教員の視野をますます狭める傾向にあった。教員はテーマが具体的であればあるほどその文言に固執してしまふ。子どもたちに読書や作文などを無理強いするばかりか、「世間」が良しとする本を読ませることもや「模範」的な文体を見習わせることに汲々となつてしまふ。そして、その「世間」とは、管理職・同僚であり、「模範」とは、教科書のことになりがちである。

その点、「豊かな言語生活をめざして」は、実に遠大なテーマ。茫漠としてつかみどころがない。たとえ子どもたちには何かを強要したくとも、その何かは教員自らが探り当てなくてはならない。子どもたちに「意欲的」「主体的」を求める前に、まず教員自身が意欲的・主体的になる必要が出てしまうのである。さらにこれは、子どもたちにもっとも望まれるテーマのはず。この学校の子どもたちは、評価や叱責や非難、時に怒声など、緊張や不安をかきたてられるさまざまな言葉の中に日々身を置いていた。それは、「豊かな言語生活」の対極にあるあまりにも過酷な学校生活であった。

私は、研究計画書にきわめて簡単にテーマ設定の理由

を書いた。そして婉曲な表現ではあるが、今年度の教員研修^{*}の最大のポイントである「教師の児童観が異なるため、共通理解が得にくい」という一文を入れた。

私は同僚教員たちの「子ども観」を変えたかった。「子ども観」が変わりさえすれば、管理職がことあるごとに私に要求する「共通理解」が、いともスムーズに得られるようになるはずだから。

「子ども観を変えよ」は、文部省をはじめ、識者なら誰もが口にする言葉である。しかし、もしも、明治以来日本の学校に根付いている「子ども観」（子どもは大人の下に位置する）が変わっているなら、どんな小さな子どもにも（むしろ小さい子どもにこそ）、「教え導こう」あるいは「論そう」などとはしないはずである。昨年から冬にかけて自分の中で起きたパラダイムの転換以来、私はそこまで考えるようになっていた。

ところで、今年度の計画の一つの目玉は、計画書の末尾に書いた「原則」である。私は◆リラックス（気楽な気持ちで、柔軟に）◆シンプル（簡潔に・誰にでも分かるように）◆オリジナル（一部分だけでも、自分独自のものを）という3つの原則を提示した。

学校外の人には、この3原則はどれもごく当たり前のことばかりで、なぜそんなものがいまさら目玉たり得る

のかと意外に思われるかもしれない。しかし、教員にとつてもっとも苦手なことがこの3原則であることは私の目には明らかであった。特に今年度のように、対外的な研究発表を控えた年であれば、教員たちは緊張し、権威を頼り、一般化や模倣に走りがちとなる。その結果忘れられてしまうのが子どもたち。さらに悪いことには、そんな教員たちの姿が、子どもたちのやわらかな脳に知らず知らず取り返しのつかない影響を与えてしまう。

子どもへの影響という点では、私は本当は真つ先に、◆エコロジカル(対立的でなく)というのを入れたかった。「豊かな言語生活」は対立的ではありえないから。しかしそれはやめた。教員の「子ども観」を変えるなどということは、並大抵のことではできない。変えようとすると私と同僚との間に激しい葛藤が生じることだろう。

そこで、研究推進のために私がとろうとした苦肉の策は、二人の管理職を同僚教員から遠ざけることであった。どんな教員であっても、管理職からの重圧から解放されれば「子ども観」も自ずと変わるにちがいないから。しかしここにも闘いは予想される。そしておそらく、これがもっとも激しい闘いとなるのだろう。

私の手持ちの時間は限られている。本来の仕事であるクラスの子どものことは、子どもたち自身に任せよ

う、すべてを信頼して。

■最初の一撃

そんな4月末の20分休み。他クラスの保護者とおぼしき女性から私に匿名の電話があった。「3年1組はおもちゃをもつてきているようだが、学校におもちゃをもつてくることなどありえないではないか。他クラスの子どもがうらやましがって困るのでなんとかしてほしい。もし校長が許可をしているのなら、これから何人かの意見をまとめて抗議に行きたい」といった内容であった。

私は、持ち物の件は子どもたちとの話し合いの結果私の判断で決めたことであり、名前を言ってもらえない以上、短時間では詳しい趣旨は伝えられない、校長への抗議はそちらの判断なのでこちらは関知しない、ということとを伝えて電話を切った。そしてそばで聞いていた職員の見線を見て教室に戻り、このことを子どもたちに伝えた。以下は子どもたちの反応である。「どうして? ほかのクラスに迷惑をかけていないのに……」「そうだよ。僕たち見えないようにやっているのに、ほかの組の子が戸を開けて見ちゃうんだよ」「でも、帰り道、2組の子に見せちゃってる子もいたよ。だからやっぱり悪いんじゃないの」。座席と同様な思いつきから、今年度、私は持ち物も規

制しないことにしたのである。と言うより、やはりある日こう言ってしまったのである。「学校にもつてくる物は自分の判断で決めてください」と。

子どもたちは日ごろ、自分の行動を学校で配布されるプリントや先生・友達からの情報をもとに決定していくが、校内だけでも情報は氾濫・錯綜しているために判断に迷うことが多いようである。そして年中誰かしらが私に聞いてくる。「先生、シャープペン持ってきていいんですか?」「どうぞ」「じゃあ、キティちゃんのついてるのいいの?」「それは……いいんじゃないの。よく分からないけど」「じゃ、先生、〇〇くんはカードなんか持ってきてるけど、あれ、いいの?」「人のことまで言わないの?」

そういう質問は年々増えていくように感じられていたのである。そして私の先の発言直後、すかさずあったのが「じゃあ、おもちやもいいんですか?」という男の子からの質問であった。とつさのことでもあり私は「自分の判断でといったのですから、それも自分の判断です」と答えた。

すると、「持ってきていい」と言ったわけではないのに、子どもたちの目は輝き始め、しかし信じられないといった面持ちであった。すぐにあちこちから興奮気味の声が聞こえてきた。「じゃあ、キラカードもいいんだ!」「ミ

二四駆も?」「ゲームボーイも!!」。

私は少し動揺した。しかし前言は取り消せないもので、遠慮気味にこう言った。「ただし、このことだけは守ってほしいんですが。つまり、他クラスの人たちに迷惑をかけるいことと、危なくないように気をつけること」。

そして具体的に私の方で約束事を決めた。ランドセルに入る大きさのものと、登下校時にはランドセルから出さないこと、見せびらかさないこと、などである。言い出すと次々条件を付けたくなってしまったが、ともかくこの学校には満員電車やバスで通学してこる子が多いため、交通事故だけは回避したかった。それ以外のことはきつと何とかなるだろう。

私はこの春から何事にも楽観的になっていた。そして、そんな私への最初の一撃が、この匿名電話だったのである。もちろんこの事実も学級通信『フォーラム』に書いた。

* * *

今にして思えば、当時私がやろうとしていたことは、とび抜けた楽観論者でない限りは、到底やる気の起きぬことばかりであった。(つづく／文中登場人物すべて仮名)

(らい・ようこ／主婦・元小学校教員)

大 曼 蛇 羅

凶鑑

連載●第22回● 葛森 樹

ついこの間、美容院で知り合ったメル友から「私の夫が飛行機乗りで、こんど見学会があるから来ない？」とメールで誘われた。

飛行機好きである。喜んだのは言うまでもない。だがよく聞けば自衛隊の戦闘機……自衛隊はちよつと、と迷ったが、興味が勝ったので行ってみた。

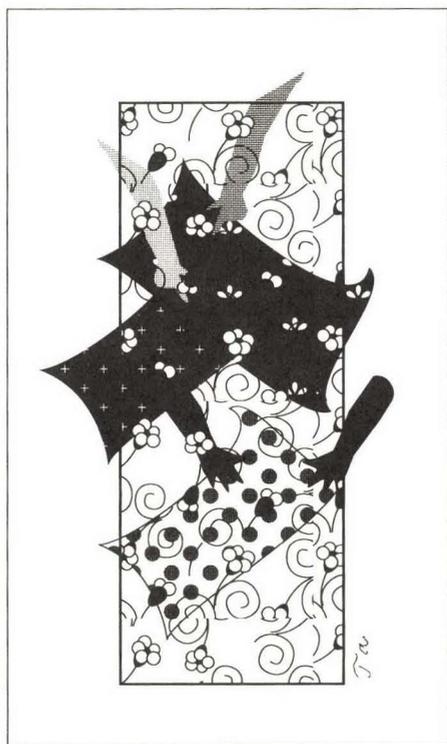
実際に戦闘機に乗ってみると、操縦桿についている赤いボタンはミサイルと機銃の発射装置。降りて機関銃の穴を覗けばテレビゲームではなく現実だ。人間を殺すためのハイテク道具は怖い、弾切れ後は無力となる。その対比が強烈で、虚しさを感じた。

例えば、人命を奪う戦争兵器も人命を救う先端医療の設備も、共に「正義」の下での行為に違いないが、表現は違えど「人間の命には生きていい人、殺していい人がいる」とラックづけして選別する、この社会の了解に従っていることでは変わりない。敵と医療費を払えない人は助からなくてもしかたないのだった。最近のゲノム解析では、人類は人種や性、民族などの遺伝子の違いが0・1%だっ

たのである。

この矛盾。例えば、自衛隊を嫌う人の中には、自分は「安全」なところに身を置きながら、「逸脱」や「変態」とされた人を誹謗し排除し、そのことに無頓着な人が多い。反面、多くの人から嫌われるところの、この自衛隊戦闘機の機長は、撃たなければ撃たれ、誰よりも先に死亡するリスクを負っているが、私という存在に偏見も差別もなかった。自分の仕事への誇りと、人を守るという「正義」が自他の殺人につながる……矛盾が日常そのものに思えて、気の毒だった。

このことをどう考えたらいいのか。軍隊という組織は嫌いだ、偏見差別の強い「常識ある市民」より、矛盾も偏見の眼差しも丸抱えて命をかけているこの機長が私は好きだ。差別・排除されない側の人間が、異質な者を排除する「正しさ」を私が嫌悪するのは、無自覚で一方的な暴力や憎悪がそこに秘められているからだ。それと「聖戦」と呼ばれるものの存在理由は同じ。差別と偏見が残忍さを生み、戦争につながるのだ。



終幕 (18)

〈アジアを着る 4〉

水田宗子

私たちはたいがい布が好きである。そして男たちはほとんど布に興味を示さない。私たちがたまに骨董街をぶらつくとき、私は古布を売る店の店先で時間を潰すが、その間、ふと気がつくと、連れの男は向かいの古道具屋のショーウィンドウの刀剣などを熱心に眺めている。モノにはたしかにジェンダーがある。そのことをはじめて知ったのは、フランス語を習い始めた時だったが、なぜ机は女性で、ノートは男性なのか、説明もされず、理屈にも合わないのです。結局は、フランス語の品詞、「もの」につけられたジェンダーはたんなる言語的なきまりにすぎないと納得して、それ以上深く考えることはしなかった。

フェミニズム批評の展開の中で、言語とジェンダーの関係が論じられるようになると、言葉にジェンダーがあることはあきらかになった。言葉はヒトが使うものだから、それは納得がいく。モノだって文化を内在させているヒトが作り、使うのだからジェンダーがあるのは当然だともいえそうだが、そこはそう簡単ではない。モノにはモノ自体の存在があるからだ。モノはいったん作られてしまうと、作り手から離れて、また、使われる人を選

んだり、拒んだりして、モノ自体の存在を主張し、そこにあるだけで使用されることさえ拒否したりするようになる。モノは物質だったり、物体だったりして、人間の主観や文化から独立した客体となり、人間にとっては他者として立ち現れてくるからだ。

時計は、ハンコは、花瓶は、鉛筆は、と考えていくと、モノのジェンダーは使い手や使い道だけによるのではなくて、そのモノの存在理由や価値の意味するものや示唆するもの、モノの形や色や感触の喚起するものなどにも大きく依拠するのではないかと思える。フロイトやデリダが活躍する所以であるが、考えてみれば、詩人は昔からメタフォアを駆使してきたのだから、モノにジェンダーのメタフォアとしての機能があることなど、いままらとやかくいうことではないのかもしれない。

形には男や女の身体や性器を連想させるものがあるばかりでなく、「豊穣な」女性の身体や子宮、「攻撃的な」男のセクシュアリティのメタフォアに使われる形もあるが、これらはすべてみな、モノ自体のジェンダーや階級ではなくて、人間の意味づけの結果であって、モノが人の文化によって印づけられていることがわかる。ジェンダー化とは、人の文化による意味づけであることが、モノのジェンダーを考えればよくわかる。色にもジェンダーがあり、そのことよって男も女も窮屈な思いをしてきたことや、性差別にもつながってきたことは、フェミニストによつて指摘されてきた。色には階級も権力も年齢もあつて、差異化と差別の手段としても表徴としても使われてきたのである。

先日、テレビでインドネシアのチレボンを取材した番組を見た。チレボンというのは、ジャワ島中央ジャカルタ寄りにあるバティックの産地の一つで、京都の「イシス」の石田加奈さんから、チレボンの染織工場で働く女性たちやその仕事風景について、興味深い話をいろいろ聞いていたので、たまたま見ていたテレビの画面に出てきたチレボンの名に心を弾ませたのだった。ところが、カメラが写したチレボンの風景は、海での漁やそれを港で水揚げする男たちや、人で賑わう活気にあふれた市場や、強い日差しの下、農業に従事する人びとの明るい表情などで、いつまでたつても、バティックも、バティック作りに精を出す女たちも、画面には現れなかった。がっかりしながら考えたのは、この番組の制作者もカメラマンも男性だろうということだった。男たちは、そも

そも布にも、布つくりにも興味がなくて、せつかくチレボンまで行っても、バティック工場やそこで働く女たちの姿など、彼らの目に入ることがなく、ましてや映像にすることなど、考えつきもしなかったのではないか。カメラにも風景にもジェンダーがある、ということだ、と思った。

女が布が好きなのは、女が衣服が好きで、インターネットに興味があり、どちらも女性たちの領域だったからである。しかし、女たちの布好きには、国籍や人種や文化も大いに関連している。アジア・アフリカの女性の布に対する関心が、現代のヨーロッパやアメリカの女性のそれとは非常に違うように思われるのは、布作りへの関わりの違いによるのではなからうか。近代以前、アジア・アフリカの女性たちは、糸つくりから染め・織り・刺繍やアツプリケにいたるまで、布作りのどのプロセスにも関わってきた。だが、欧米社会では、近代化を通してその工程がすっかり機械化され、大資本による工場生産に移行する中で、布作りが女性固有の仕事でも経済活動でもなくなった。西欧や日本の女性たちは、今では布や服を作るプロセスや技術から離れてしまつて、それは、デザインやメーカーといったアパレル業界に独占され、完成した服だけがファッション界を経由して消費者となつた女性たちにモノとして提供されている。

アジア・アフリカの国々では、布はそのまま腰巻きや服になつたり、敷物や掛け物や間仕切りや包みとして使用される。布からそれらの用途に変えるのは個人で行える程度のもので、家事の一部としてそれを行っている女性が多い。私知知っている昔の日本の女性たちもそうだった。子供時代はもちろんのこと、私が大学を卒業する一九六〇年頃でも、自分や子供や周りの人のために簡単な服を作っている女性は大勢いた。服は買うものよりも、作るもの、作ってもらうものだった。日本でも二〇世紀の半ば頃までは、女性にとつて服を着るとは、一枚の布を手にかつることから始まるプロセスであつた。

今、アジアの布を手にかつると、その一枚一枚に、私たちが近代化の過程で手放してしまつた、糸作りから着ることへの手間も時間もかかる細かな手仕事の労働の過程と、そこにこめられた女性の期待や夢までもがぎつしりと詰まつていて、それが甦ってくるような気持ちになる。それは、女たちの遺伝子に深くきざまれている、手や身体感覚、夢の記憶の甦りなのだと思う。モノのジェンダー化のプロセスは複雑である。

●特集のシンポジウムは予想よりずっと幅広い層が関心を持ってくださったようで、250人近い方が参加。このテーマへの二一ズを痛感しました。「働き方を変える」ことをめぐるヒントが満載ですので、アタマが元氣!なときにぜひ読んで下さい。

米国の企業では、女性や少数派の人たちを積極的に登用することで (Diversity) 多様性を重視することで、企業が活力を得るという考え方はかなり浸透しつつあり、ワークライフバランス (仕事と家庭生活のバランス) も企業にとつての課題になり、従来の慣習や既成概念を徹底的に洗い出すことで企業文化を刷新し、良質の短時間労働を実現するためのプログラムが90年代初頭から調査研究されているそうです。

時代は多様化へ。今まで「みんないっしょに」深く考えないで走ってきたのに、急に「個の尊重」とか「多様化」とか、「自己決定」とか言われても切り替えが大変な私たち。移行の実現には何が欠けているのかをすべて書き出し、それらを身につけるためのプログラムを作ることが緊急に必要な

のでしょう。

ベル・フックスの主張を手掛かりに進めてきた「現代を生きる女性学2001」、次回5月19日(土)のテーマは「男性との共闘」、ゲストに蔦森樹さんを迎えます。6月9日(土)のテーマは「フェミニズムの可能性」。会場は東京ウィメンズプラザ。事前に資料をお送りしますので参加ご希望の方は予約して下さい。(稲邑)

●今回の特集は濃密で、いろいろな課題やヒントが出てきて、皆さんさぞや頭が疲れたのではと危惧しております(女性の働き方をめぐる状況については2000年6月号「ジェンダーの視点から」働くこと」を考える」をご参照下さい)。私は頭が痛いと言いつつ、編集の合間をぬって遊んでいたので大丈夫なだけだ。世田谷で路上演劇祭というのがあり、ワークシヨップもいろいろあつて、俳優で詩人のシン・リーさん(韓国で「호랑이」ホリョウイという演劇グループ主宰)の「詩と表現のワークシヨップ」に参加してみた。人見知りで恥ずかしがりやの私(そう言うと娘に「ウソく声も態度もデカイじゃん」とバカにされたが)は演劇には縁もなく、ちよつと緊張して出かけた。

リーさんのねらいは多分、女性を外からの否定的なメッセージに囚われがちだが、何者にも比べられないかけがえのない存在として自分のイメージを膨らませてほしい……といったことではなかったかと思う(フエミックスでたえずテーマにしている自己尊重と同じね)。いろいろなゲームやワークでからだを動かしたり踊ったり、時間をかけてリラククスしつつ、イメージを動きにしたり、色やことばで形にしていこううちに(こうしたこととは考えないで思いついたままやっていく、嫌だつたらやらぬ)、いつのまにやら「私は……」で始まる10行詩のよなものが出てきた。詩なんて書いたことのない私だが、私の大好きな世界が広がり私を包み込むようで、それはすてきな体験だった。改めて私は私が好きだなーと思つた(なんてお気楽で幸せ者、まさにワークのねらい通り)。ワークは日常をぶつ飛ばすワザを持っているので、恐くもあり面白くもあり。スタッフのミーファさんに「あなたはパワフル、声もすてき」などと言われいい気になった私は、この機会に何か始めようと無沙汰していたアフリカダンスにも行ってみた。予想通りの筋肉痛……

と調子に乗っていたら、さっきマックがフリーズして印刷できなくなつた。いろいろやってもダメで冷や汗が出たが、カスタマーサポートセンターの指導で無事復旧したところです。よかつた。(中村)

●先日の新聞に、乗客からの要望で減らしていた電車内や構内の放送がまた増えているという記事があり、もつと少なくして欲しいと思つていた私はがっかりしてしまつた。日本は不要なサービスが多すぎて必要なサービスが欠けていると私は常々思つている。その例が過剰包装、過剰放送。「何番線に何々行き」の電車が入ります」から始まつて、「白線の内側にお下がります」から果ては「降りる人が先です」。まるで幼稚園児扱いである。自分の命が惜しい人は言われなくても自分で気をつける。外国に行つて列車に乗り違いに気づかされるのは、まづこの過剰放送がないという点。知らないうちに列車は発車し、列車内での放送もないから、自分の降りる駅がどこか、自分で気をつけていなければならぬ。最初はちよつと戸惑うが、慣れると静かでゆつたりできるメリットの方が断然いい。日本に帰つてくると、ああ、日本はなんつてうまい、

せわしない国だろうとイライラさせられる。常に同じことを繰り返しているから誰も聞かなくなる。それよりも、「転落した場合はこのようにして下さい」という情報を流す方が現実的で親切だ。また、列車内や駅構内での飲酒を禁じる法律を作つて違反者には罰則を課すことも必要と思う。何故にあんなに頻繁なアナウンスが必要なのかと考えてみたが、目の見える人は行き先や停車駅については掲示で足りる。あとは視覚障害者である。だが、アナウンスがなければ、周りの人に援助を求めらるだろう、援助する人も必ずいるだろう。アナウンスに頼るのではなく、周囲の人間同士が助け合える環境の方がずっと気持ちのいい社会になると思ふのだが。あの過剰放送は自分で自分を管理できない、言われなければ何もできない依存の人間を作り出しているだけだと思ふ。——実はこれ、朝日新聞の声欄へ投稿した原稿なのだが、ボツにされてしまった。Weの「読者のひろは」へと要望したのに、これもボツにされた。(河村)

◆継続手続を下さつた方、ありがとうございます。例年お振込みの遅れる方が多いので、中止のご連絡のない場合、5月

号まで引き続きお送りしています。お振り込みがまだの方、ぜひ継続して『We』をお読み下さい。よろしく願ひします。

◆読者拡大にご協力お願いします。チラシ見本誌等ご連絡いただければお送りします。Weやフェミックスの本を販売(紹介)できる集会等がありましたら情報をお寄せください。図書館等への購入希望もお願ひします。単行本は比較的受取りやすいです。(編集室)

くらしと教育をつなぐWe

2001年5月号(92号/vol.10.No.2) 2001年5月1日発行

定価……680円(本体価格648円+税)
(年間購読料7500円/送料共)

発行……femix・フェミックス
〒154-0001 東京都世田谷区池尻3-2-3-703
tel & fax 03-3424-3603
E-mail : femix@mail2.alpha-net.ne.jp
http://www3.alpha-net.ne.jp/users/femix/
富士銀行 池尻大橋支店 普1501277
郵便振替 00130-7-754314 (有)フェミックス

編集……稲邑恭子・中村泰子
装幀・イラスト……川口民子
印刷……(有)イー・エム・ヒー

●本誌掲載記事の無断転載、複製をお断りします。

購読ご希望の方は、編集部に直接お申し込み下さい。電話、ファックス、E-mail、あるいは郵便振替で○号から購読希望と明記して年間購読料7500円をお振り込み下さい。

- 定価 680円 (本体価格648円+税)
- 年間購読料 7500円 (10冊/送料共)
- 郵便振替00130-7-754314フェミックス

「くらしと教育をつなぐWe」は、もともとと家庭科の男女共修の実現のためにスタートした月刊誌ですが、従来の家庭科の枠を超えて、女と男が対等に生きることができる社会の実現のために必要な、さまざまなテーマを取り上げ、特に教育現場において性教育やいじめ防止教育なども包括した「ジェンダーフリー教育」の実現と、「男女共同参画社会」実現のための具体的なノウハウを追求します。

■2001年度特集
4月号「いじめ」に立ち向かう

■連載

女が歳をとるといふこと 木村栄◇家事神話/女性の貧困のかけにあるもの
竹信三恵子◇新米議員のジェンダー議事録 木村民子◇乱読大魔王日記 冠野文◇ひげのおばさん子育て日記 中畝常雄・治子◇過去を振り返らない/先を考えない 松本一郎◇英語で女性問題を語るためのワンポイント・レッスン 吉原令子◇3年1組の12ヶ月 来陽子◇ジェンダーフリー大曼陀羅図鑑 薦森樹◇終幕 水田宗子

■女と男の家庭科新時代

授業実践/風がかわる匂いかわる◇新・オホーツクの潮風荒く 江口凡太郎◇熊本発・困ったときの一発ネタ◇曲がり角の家庭科 梶原公子◇食の歳時記 入江一恵・坂本 薫

◎バックナンバーも販売しています。バックナンバーのリストをご希望の方はお問い合わせください。

■Weの置いてある書店■

- 北海道 ●旭川一こども富貴堂
- 東 京 ●表参道一クレヨンハウス
●東京ウィメンズプラザ内一パッチワーク
●新宿2丁目一模索舎
●西荻窪一ナワ・プラサード
- 大 阪 ●ウィメンズブックストア松香堂
●江坂一クレヨンハウス
- 広 島 ●家族社

(書店でご注文の場合は「地方小出版流通センター取扱い」としてお申し込み下さい。)

くらしと教育をつなぐWe 読者募集

フェミックス tel & fax 03・3424・3603

〒154-0001 東京都世田谷区池尻3-2-3サンケイランドハイツ703
<http://www3.alpha-net.ne.jp/users/femix/>
E-mail femix@mail2.alpha-net.ne.jp